

柏市産業振興戦略プラン

柏 市

目 次

1	柏市産業振興戦略プランとは	1
	(1) プランの目的	1
	(2) プランの位置づけ	1
	(3) プランの計画期間	1
2	現状と課題	2
	(1) 我が国の産業構造の変化と国の対応	2
	(2) 柏市の状況と変化	5
	(3) 市内事業者の課題と柏市の強み	30
3	柏市産業の新たな発展方向	40
	(1) 柏市産業の新たな発展方向	40
	(2) 柏市産業振興戦略プランの基本的考え方	42
4	重点項目	43
	(1) 成長を支えるプラットフォーム整備	43
	(2) 戦略的情報収集・発信	44
	(3) 恵まれた環境を活かした立地促進	45
	(4) 成長戦略分野の立地・産業化促進	46
	(5) 農・食・健康関連等地域資源活用	47
	(6) 「新しい公共」の担い手との連携	48
5	重点プロジェクト	49
	(1) 人材確保・育成プロジェクト	49
	(2) 国際化支援プロジェクト	52
	(3) スマートコミュニティプロジェクト	54
	(4) 農と食と健康のまち「柏」プロジェクト	57
	(5) 高齢社会関連産業の振興プロジェクト	62
	(6) KASHIWA STYLE プロジェクト	65
	(7) 起業家支援プロジェクト	68
	(8) 重点プロジェクトの推進にあたって	71
6	柏市第四次総合計画後期基本計画との関係	74
	資料：柏市産業振興戦略プランの策定経過	75

1 柏市産業振興戦略プランとは

(1) プランの目的

社会構造・産業構造が変化する中で効果的に産業振興事業を実施するためには、事業の重点化、体系化、プロジェクト化（戦略的グルーピング）及び明確化が必要です。

柏市産業振興戦略プランは、柏市において、社会構造・産業構造が変化する中で強みを活かすことによって効果的に産業振興事業を実施するため、産業を取り巻く課題及び産業振興に活かせる強みを明らかにするとともに、強みを活かして変化に伴う課題に対応する観点からの事業の重点化並びに事業を推進する観点からの体系化、プロジェクト化及び明確化を図るものです。

このため、工業や商業、観光といった分野ごとの事業を推進する総花的な計画ではなく、時代の変化を捉え、分野を跨って産業の振興に取り組むことで効果が期待できるプロジェクトの作りこみに重点を置いています。

また、厳しい市の財政状況等を踏まえ、国や県、関係機関、そして民間事業者と連携し、それぞれが持つ人材や資金、情報なども活用しながら、柏市における産業が振興するように市がコーディネート機能を発揮していくことにも重点を置いたプランとなっています。

(2) プランの位置づけ

柏市産業振興戦略プランは、柏市の総合計画である第四次総合計画の後期基本計画（計画期間平成 23 年度～平成 27 年度）を推進していくうえで、柏市産業振興基本条例の理念を踏まえ、柏市の都市資産を活用した農業活性化を進めるための柏市都市農業活性化計画、柏市の中心市街地の広域商業拠点として機能の維持を図り活性化を進めるための柏市中心市街地活性化基本計画などと相まって、柏市における産業振興を効果的に進めていくために策定するものです。

(3) プランの計画期間

柏市第四次総合計画後期基本計画との整合を図り、柏市における産業振興を戦略的に推進していくため、このプランの計画期間を平成 23 年度からの 5 年とします。

2 現状と課題

産業振興戦略プランの策定にあたって、大きく変化している社会構造や産業構造の動きを把握し、柏市の事業者が直面している現状と課題を明らかにするとともに、産業振興を図っていく上での柏市の強みを整理するために、国の動き等から我が国の動向を把握するとともに、柏市産業の各種統計データの整理、市内事業者に対するアンケート調査やヒアリング調査などを実施しました。

(1) 我が国の産業構造の変化と国の対応

1) 我が国を取り巻く状況変化

①我が国産業の国際競争力の低下

90年代初めのバブル崩壊以後、わが国経済は約20年にわたり低迷を余儀なくされてきました。その間、経済活動のグローバル化が急速に進展するなかで、著しい経済成長をみた新興国等との競争が激化し、生産コスト等の面で競争力を失ったわが国産業は苦境に立たされてきました。

とりわけ、リーマンショック以降の世界同時不況は、それまで外需に過度に依存していた自動車・電子情報関連等の輸出型産業を直撃し、他の国以上に深刻なダメージをもたらすこととなりました。以後、国内市場の縮小や新興国等の成長市場へのシフトが進む中で、わが国産業の国際競争力はさらに低下しつつあります。

②生産拠点の海外移転に伴う地域産業の空洞化

世界同時不況から急回復した新興国等の成長市場を指向して、大手企業による対外投資と生産シフトがさらに進む一方で、国内生産拠点の縮小と再編・集約化（立地調整）がドラスチックに進められ、新規の国内設備投資と企業立地の停滞が顕著となっています。

これにより、これまで量産工場等の立地に依存していた各地の地域産業の衰退が深刻化するとともに（所得・雇用・税収の減少等）、地域中小企業との取引減等による産業集積の崩壊が進みつつあります。

③人口減少にともなう国内市場の縮小

国内市場に対応した内需型産業についても、急速な人口減少局面とも相まった関連マーケットの縮小に加え、世界同時不況以後の雇用縮小による個人消費の低迷やデフレ長期化などを背景に、全国規模での事業再編・集約化が進行しつつあり、商業・サービス業を含む大手資本の経営効率化・拠点集約化等により地域産業の経営に影響が出ています。

その結果、わが国各地では、中心市街地にみられる地域商業の衰退がさらに進むとともに、財政制約による少子化・高齢化対応の立ち後れとも相まって、地域コミュニティの崩壊（「無縁社会」化）が深刻化しつつあります。

④需要構造の変化への対応

こうした中でわが国社会においては、戦後の高度成長期以来、モノの生産・消費を中心とした「経済的豊かさ」を追求するなかでほとんど未開拓であった、健康・医療、福祉・介護、教育・子育てや農食、環境、生活文化といった「社会再生」に関わる分野での新たな需要創造と産業化への取り組みが求められています。

2) 国の成長戦略

政府は平成 22(2010)年 6 月 18 日、今後 10 年間の経済運営の指針となる「新成長戦略」を閣議決定しました。医療・介護や環境などの 7 つの戦略分野で雇用と需要を創出し、2020 年度までの年平均で、国内総生産（GDP）名目 3 %、実質 2 %を上回る経済成長を目指すとしています。

そこでは、①わが国の強みを活かす成長分野（環境・エネルギー、健康）、②フロンティアの開拓による成長分野（アジア、観光・地域活性化）、③成長を支えるプラットフォーム（科学・技術・情報通信、雇用・人材、金融）といった各分野について、2020 年までに達成すべき目標と主な具体的施策を中心に以下のような産業発展の戦略が掲げられています。

- ・ グリーン・イノベーションによる環境・エネルギー大国戦略
- ・ ライフ・イノベーションによる健康大国戦略
- ・ アジア経済戦略
- ・ 観光立国推進戦略
- ・ 地域資源活用による地方再生戦略
- ・ 農林水産分野の成長産業化

「新成長戦略」では、低迷する経済、拡大する財政赤字、信頼感が低下した社会保障を立て直すべく「強い経済・強い財政・強い社会保障」を一体的に実現し、わが国が 20 年近く続く閉塞状況を打ち破り、元気な日本を復活させるとしています。

【参考：「新成長戦略」の概要】

〔「強い経済」の実現〕

…「強い経済」を実現するためには、安定した内需と外需を創造し、産業競争力の強化とあわせて、富が広く循環する経済構造を築く必要がある。

需要を創造するための鍵が、「課題解決型」の国家戦略である。現在の経済社会に山積する新たな課題に正面から向き合い、その処方等を提示することにより、新たな需要と雇用の創造を目指す。この考え方に立ち「新成長戦略」では、「グリーン・イノベーション」、「ライフ・イノベーション」、「アジア経済」、「観光・地域」を成長分野に掲げ、これらを支える基盤として「科学・技術・情報通信」、「雇用・人材」、「金融」に関する戦略を実施する。

●「新成長戦略」が想定する戦略分野の概要

戦略分野 [プラットフォーム]	想定されている成長分野の概要
環境・エネルギー ーグリーン・イノベーションー	○エコ住宅、省エネ家電・次世代照明等 ○「緑の都市」化、都市構造の低炭素化 ○再生可能エネルギー普及、リサイクル推進、蓄電池・次世代自動車普及等 ○日本型スマートグリッド 他
健康（医療・介護） ーライフ・イノベーションー	○バリアフリー住宅、高齢者向け住宅等 ○医療・介護・健康関連産業：医薬品、医療・介護技術（高齢者用モビリティ、介護ロボット等） ○遠隔医療システム、在宅生活支援ツール等
アジア	○羽田空港国際化、国際戦略港湾整備等 ○日本企業のビジネス機会拡大（国際標準化、インフラ整備支援等）、海外人材受入れ・研修教育等
観光・地域活性化	○中古住宅・リフォーム市場、耐震改修等 ○エコツーリズム、グリーンツーリズム等 ○大都市圏インフラ整備、社会資本ストックの戦略的維持管理（PFI・PPP活用等） ※農林水産分野の成長産業化（6次産業化等）
[科学・技術]	○イノベーション創出への制度・規制改革 ○IT技術利活用による国民生活向上等 ○基礎研究振興と新フロンティア開拓
[雇用・人材]	○「新しい公共」による就労支援・雇用創造（社会的企業等）、子育て環境整備による子ども関連産業の成長、質の高い教育需要創出

(2) 柏市の状況と変化

柏市の状況と変化について、各種統計から整理するとともに、これまでの産業振興の取り組みを整理しました。また、事業者の視点から柏市の状況や変化を把握するため、市内事業者に対するアンケート調査とヒアリング調査を実施しました。

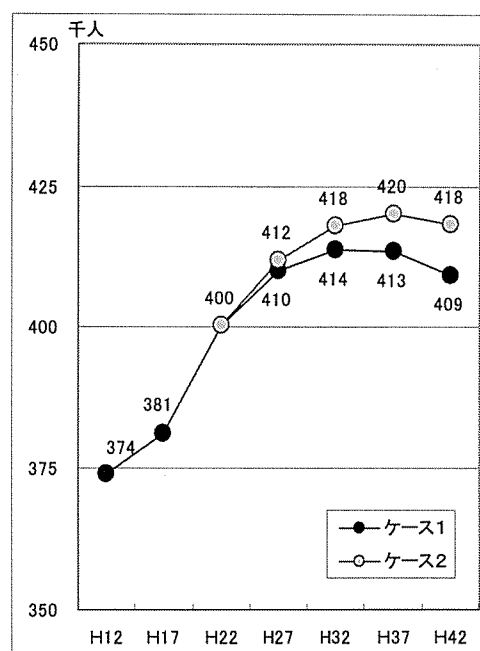
1) 柏市の状況変化

■人口動向（柏市後期基本計画基礎調査報告）

- ・ 柏市の人口は一貫して増加。つくばエクスプレス開業以降、その趨勢は一層高まりをみせています。
- ・ 今後もしばらく増加が続き、平成 32 年から 37 年にかけてピークを迎え、その後は減少に転じていくと推計しています。
- ・ 年少人口と生産年齢人口が減少する一方、老年人口は増加が続き、高齢化率は更に高まることが予想されています。

※ケース 1：北部地区の人口増加条件を低めに設定した場合

ケース 2：北部地区の人口増加条件をやや緩く設定した場合



年齢 3 区分別人口の推移

ケース1

(上段:実数、下段:構成比)

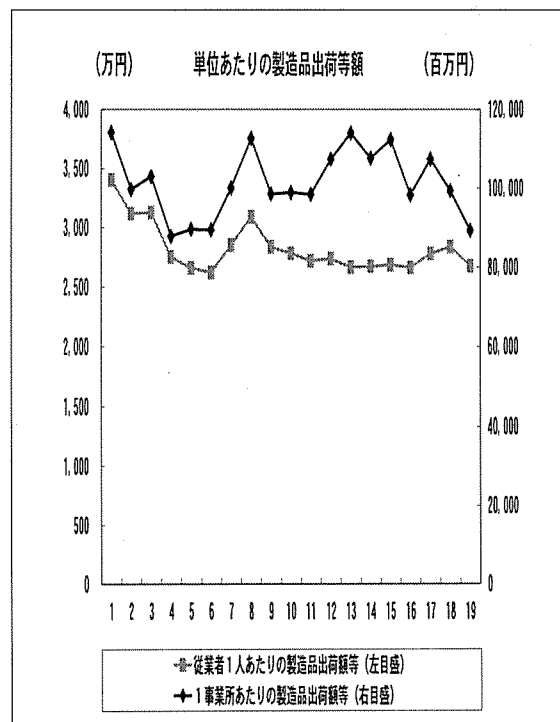
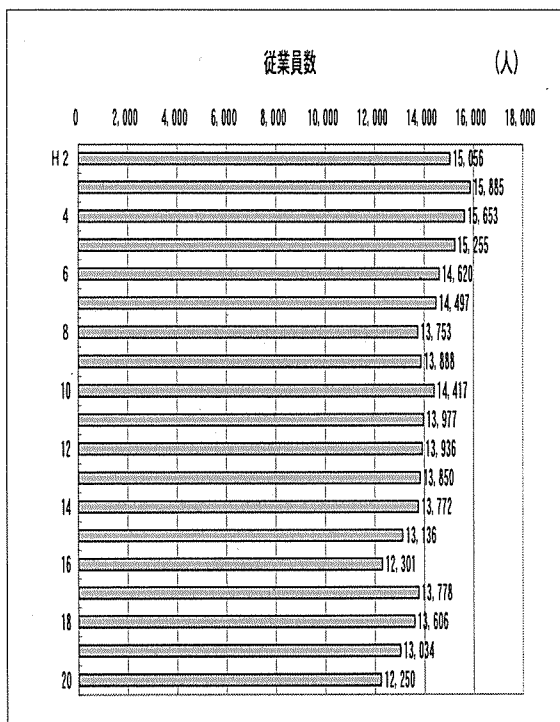
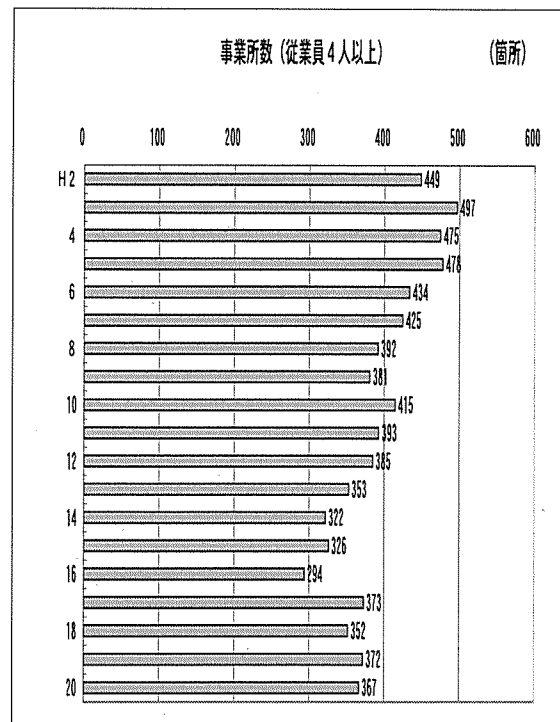
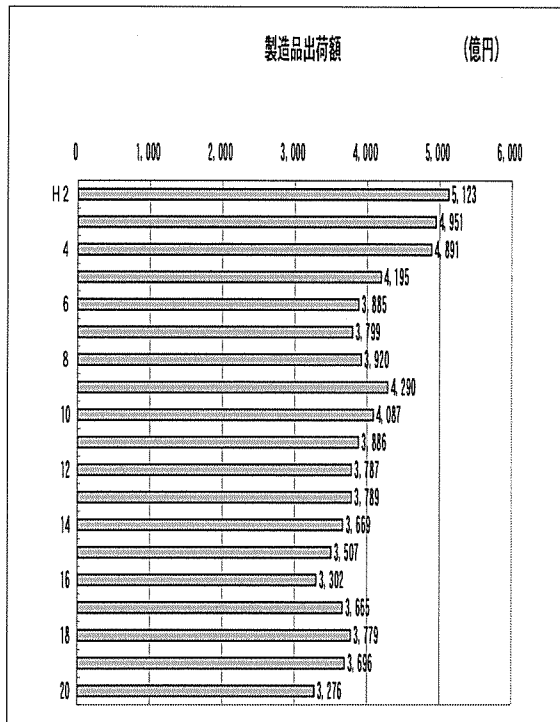
	H12	H17	H22	H27	H32	H37	H42
総 計	373,778	380,963	400,209	410,040	413,881	413,408	409,156
0～14歳	52,822	51,262	54,360	52,890	48,459	42,117	37,948
	14.1%	13.5%	13.6%	12.9%	11.7%	10.2%	9.3%
15～64歳	274,849	267,227	265,062	253,172	247,062	245,168	237,969
	73.5%	70.1%	66.2%	61.7%	59.7%	59.3%	58.2%
65歳以上	46,107	62,474	80,788	103,978	118,360	126,122	133,239
	12.3%	16.4%	20.2%	25.4%	28.6%	30.5%	32.6%

ケース2

	H12	H17	H22	H27	H32	H37	H42
総 計	373,778	380,963	400,209	411,849	418,103	420,083	418,302
0～14歳	52,822	51,262	54,360	53,201	49,175	43,222	39,347
	14.1%	13.5%	13.6%	12.9%	11.8%	10.3%	9.4%
15～64歳	274,849	267,227	265,062	254,477	249,998	249,624	243,944
	73.5%	70.1%	66.2%	61.8%	59.8%	59.4%	58.3%
65歳以上	46,107	62,474	80,788	104,171	118,930	127,237	135,011
	12.3%	16.4%	20.2%	25.3%	28.4%	30.3%	32.3%

■工業（工業統計）

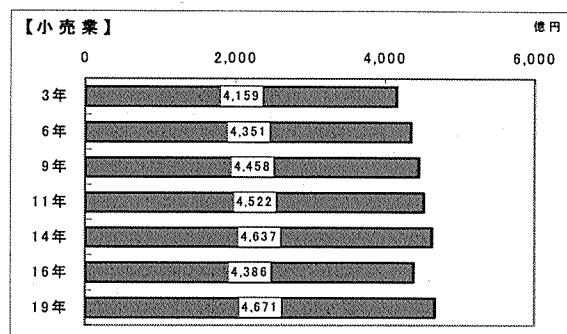
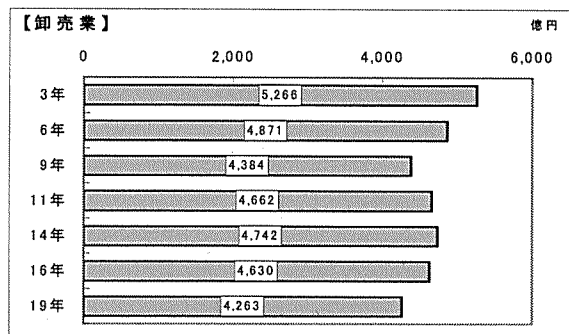
- ・製造品出荷額等、事業所数、従業者数ともに減少傾向にあります。なお、ここ数年は横ばい基調で推移していましたが、平成20年は減少しました。
- ・1事業所あたり、従業者1人あたりの製造品出荷額等は、直近ではやや下降傾向がみられます。



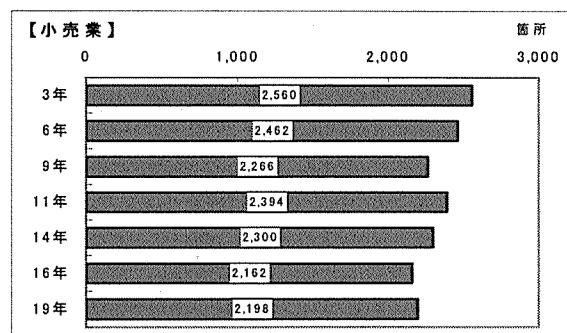
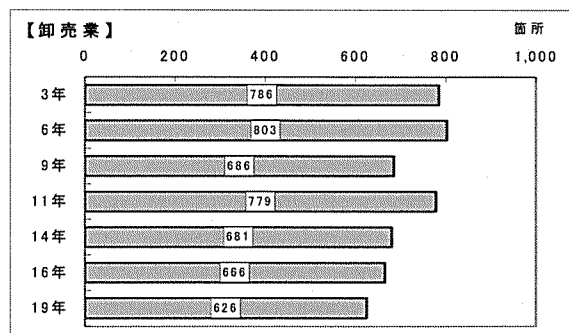
■商業（商業統計）

- ・近年の柏市の年間商品販売額は、卸売業ではやや減少、小売業ではやや増加の傾向にあります。
- ・事業所数は卸売業で特に減少の傾向がみられます。小売業の事業所数はやや減少を続けてきましたが、直近では僅かながら増加に転じています。
- ・従業者数は、卸売業は減少しているのに対し、小売業は増加基調にあります。
- ・1事業所あたり、従業者1人あたりの年間販売額は、小売業と比較して卸売業が大幅に上回っています。
- ・小売業の1事業所あたりの年間販売額は、着実に増加を続けています。

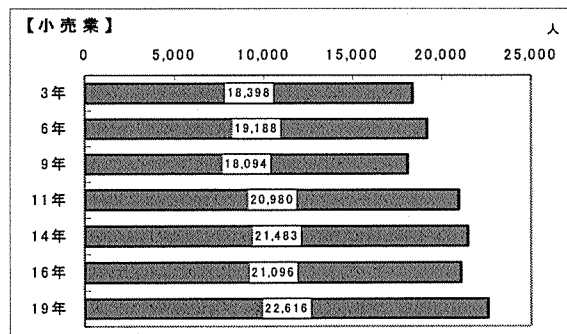
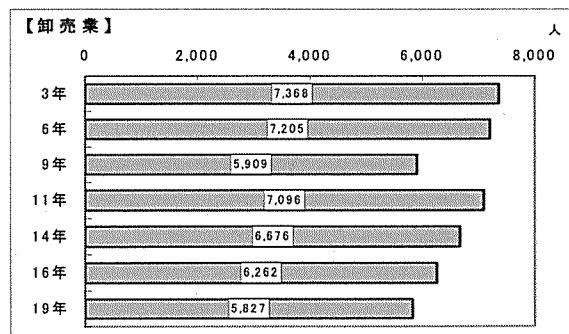
年間販売額の推移



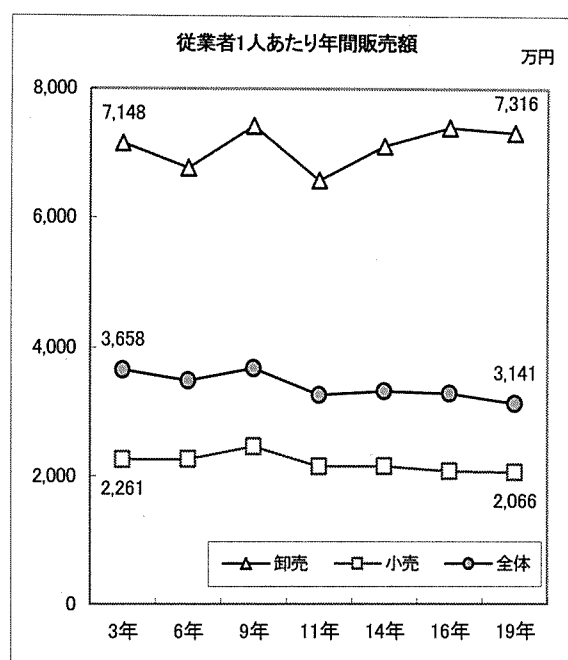
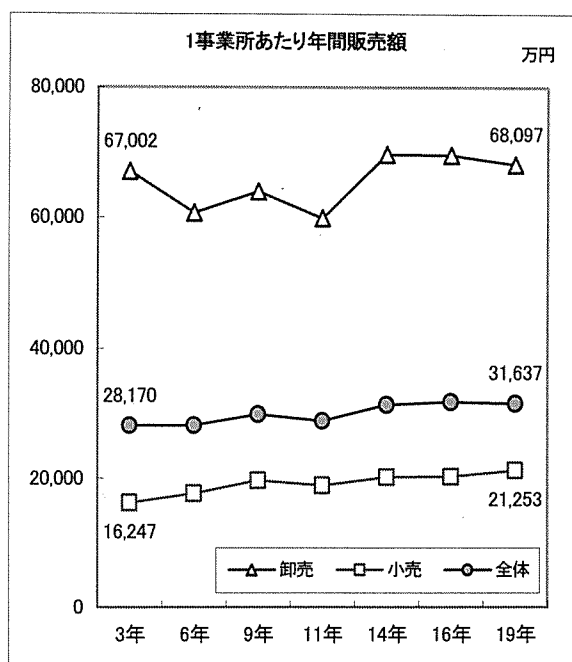
事業所数の推移



従業者数の推移

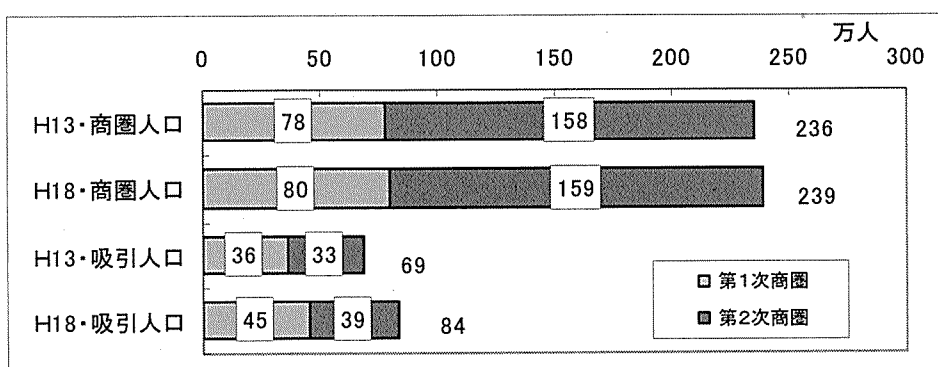


事業所あたり、従業者あたりの年間販売額



■商圏人口

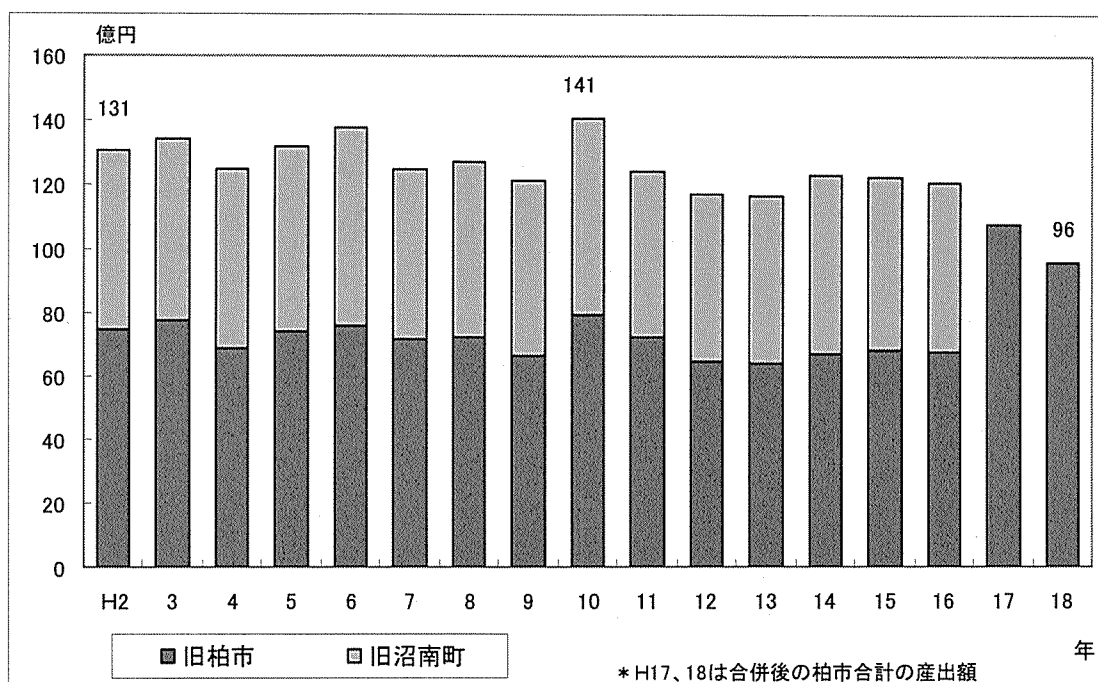
- ・ 柏市の商圏の範囲は 18 市 4 町村に及んでいます（平成 18 年現在。以下同様）。
- ・ 第 1 次商圏は 5 市 3 町村で、千葉県内東葛地区の柏市、流山市、我孫子市のほかに、印旛地区の白井市と本埜村、茨城県のつくばみらい市、利根町、河内町も含まれています。
- ・ 第 2 次商圏は県内に加え、茨城県の 7 市、埼玉県の一部を含む 13 市 1 町となっています。



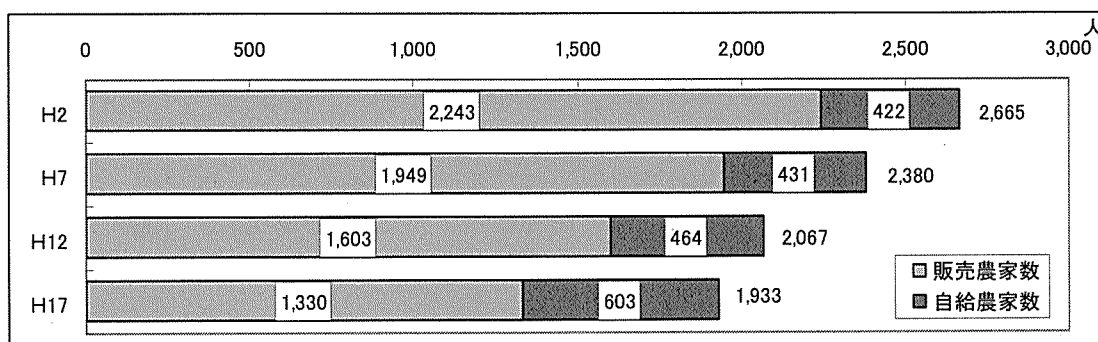
■農業

- ・農業産出額は横ばい基調を続けてきましたが、近年減少傾向にあります。
- ・農業産出額を合併前の旧柏市、旧沼南町別にみると、旧柏市が全体の約55%、旧沼南町が約45%で推移していたことがわかります。
- ・農家数は減少を続けています。内訳を見ると、相対的に大規模な販売農家（経営耕地面積が30a以上、または農産物販売額が50万円以上の農家）の減少幅が大きいことがわかります。

農業産出額の推移（千葉県生産農業所得統計）



農家数の推移（農林業センサス）

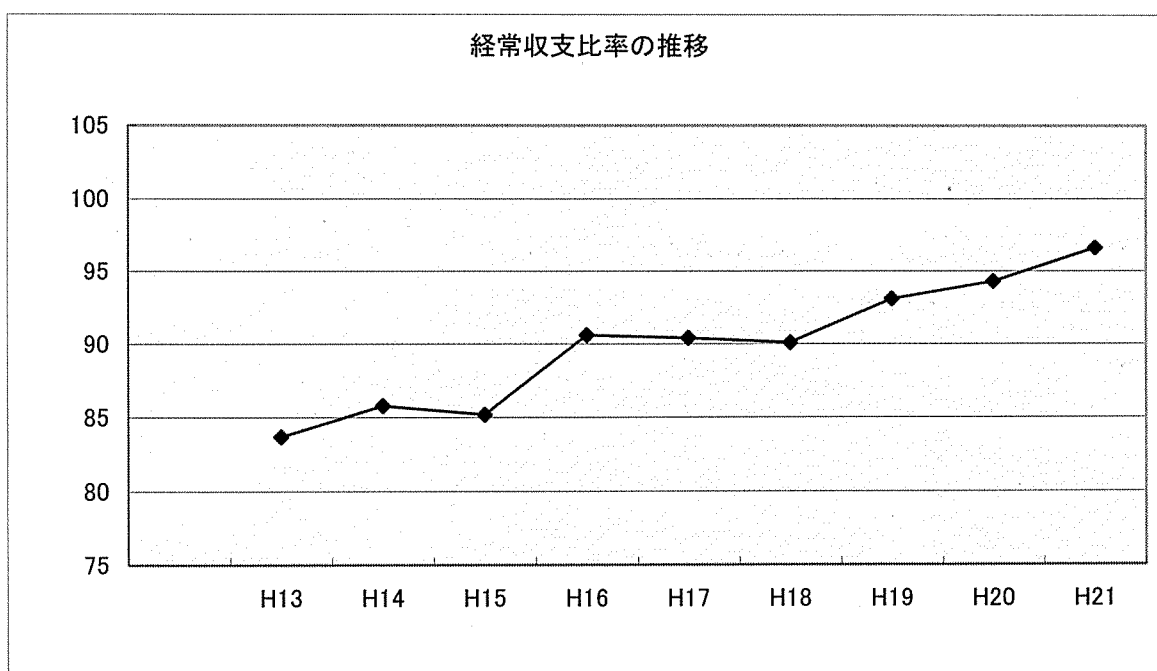


■財政状況（経常収支比率の状況）

財政構造の弾力性を示す柏市の経常収支比率は、平成21年度決算では96.6パーセントで、自由に使い道を決めることができる財源が少なくなっており、年々財政の硬直化が進んでいます。

経常収支比率… 経常的経費（人件費、維持補修費、扶助費、公債費などのうち臨時的性格の強いものを除いた毎年必ず支出しなければならない経費）に充てられた経常一般財源（市税など毎年収入される収入のうち用途が限定されていないもの）の割合を表し、地方公共団体の財政構造の弾力性を示す指標

区 分	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21
経 常 収 支 比 率	83.7	85.8	85.2	90.6	90.4	90.1	93.1	94.3	96.6

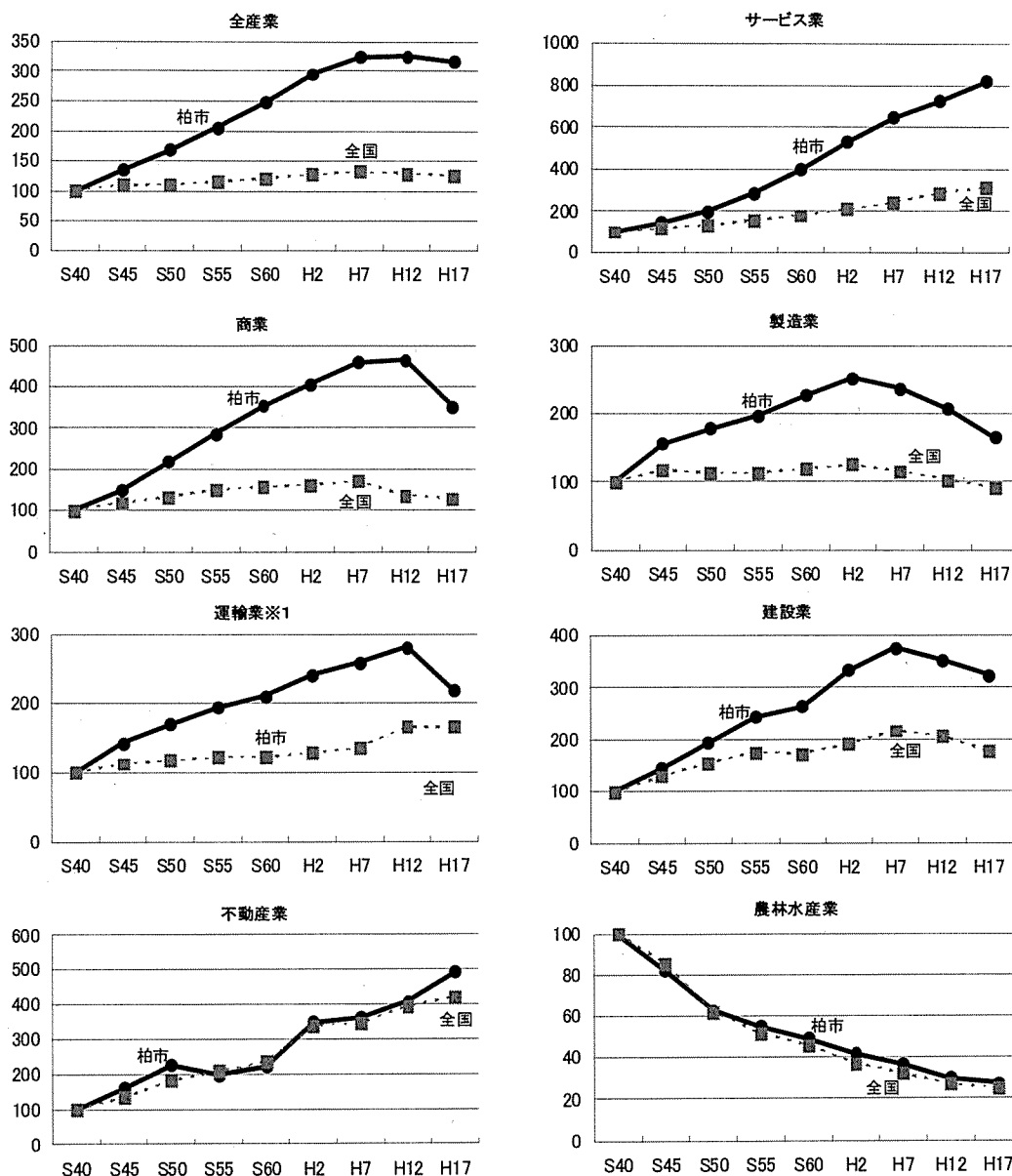


■ 柏市の産業構造の状況

○ 雇用規模が拡大するサービス業（国勢調査）

柏市の産業別の従業者数を全国と比較すると、大きく拡大していましたが近年は停滞傾向にあります。業種別には、全国と比較すると「商業」、「運輸業」が減少傾向を示している反面、「サービス業」が拡大する傾向を示しています。

柏市と全国の従業者数の推移（昭和40年を100と指数化したもの）

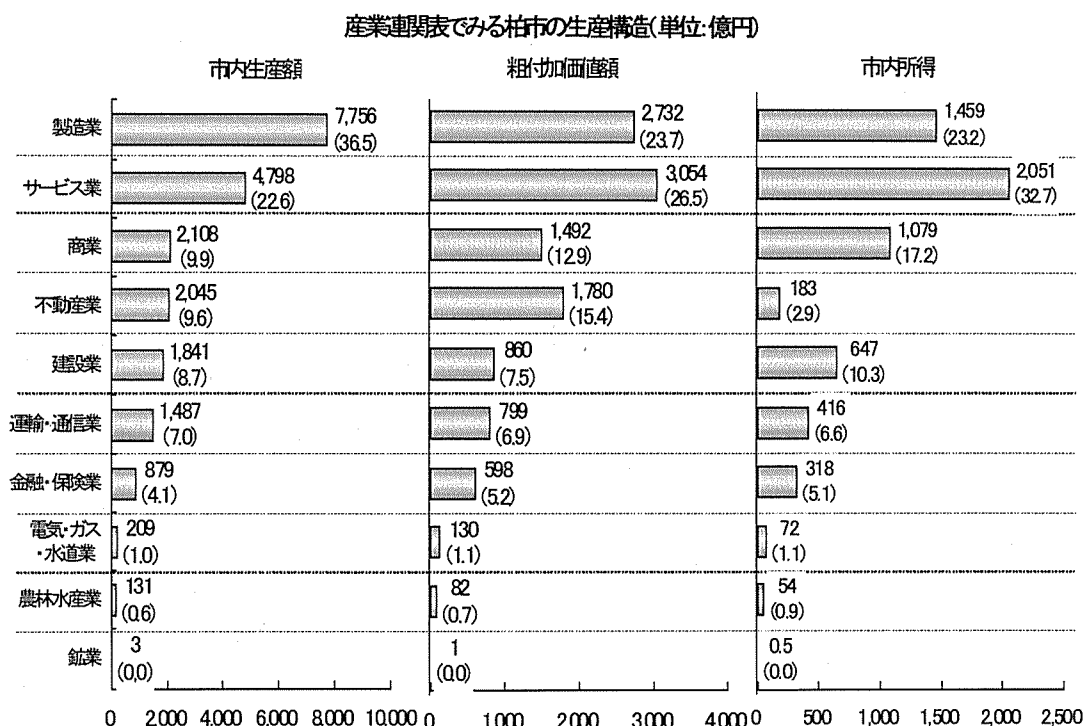


※1）運輸・通信業のうち、通信業は近年から集計が始まり過去数値がないため、上記グラフでは運輸業のみとしている。

資料：国勢調査

○柏市の基幹産業は製造業とサービス業

市内生産額、粗付加価値額、市内所得の3つの経済指標から、柏市経済を牽引する産業を見ると、すべての指標で、「製造業」、「サービス業」が大きなウエイトを示しており、これらの産業活性化が市の経済状況に大きく影響すると考えられます。



グラフ中の()内の数値は、各産業部門の構成比

柏市産業連関表試算(2000年)

■東北地方太平洋沖地震による影響

平成23年3月に発生した東北地方太平洋沖地震、これに伴う計画停電等により、柏市内の事業所は、売り上げの減少、生産活動に対する制約等の事態に直面しています。

福島第一原子力発電所事故への対応も長期化が予測され、自粛ムードによる消費の停滞、サプライチェーン、資金繰りなど今後の影響が大きく懸念されるところです。

2) 柏市のこれまでの取り組み

柏市では、これまで中小企業の経営安定や新産業の創出、商業の活性化とまちの賑わいの創出、都市型農業の振興などの分野でさまざまな取り組みを進めてきています。

これらの取り組みは、柏市の企業活動を支え、産業の活性化を図っていく上で重要な事業であり、引き続き積極的に取り組んでいく必要があります。

■経営基盤の安定

柏市では、千葉県信用保証協会と市内の金融機関と連携した制度融資を行い、利子補給制度を設けて資金的な面での支援を行っています。

柏市中小企業資金融資制度の推移

(単位：件、千円)

	運転資金		設備資金		合 計	
	件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額
18年度	142	1,416,350	42	454,550	184	1,870,900
19年度	159	1,696,550	27	328,050	186	2,024,600
20年度	172	1,802,100	41	518,560	213	2,320,660
21年度	160	1,518,400	29	229,560	189	1,747,960

■新分野進出などの支援

販路の開拓や新分野進出を支援するため、市内企業の産学連携等へのハンズオン支援、産学連携事業や異分野連携事業、販路拡大事業に対する助成、東大柏ベンチャープラザの家賃の助成などを行っています。

新産業創出促進事業補助金の推移

(単位：件、千円)

	内容と件数	金 額
18年度	産学連携1 異分野連携1 販路開拓1	4,250
19年度	産学連携1 販路開拓1	3,000
20年度	産学連携1	3,000
21年度	販路開拓3	4,230

■商業の活性化

商業の活性化では、各商店街の販売促進事業への助成、地域の特性や課題に対応した商店街の取組みに対する助成、街路灯の省電力化推進などの取り組みを進めています。

LED化した商店街の街路



柏駅周辺の中心市街地については、活気あふれる特性を活かしつつ、安全・安心でゆとりや品格のあるまちづくりを行うことにより、広域商業拠点としての機能の維持を図る活性化に向けた取り組みを進めています。

柏駅周辺で行われたアートイベント



■人材の確保

企業の人材確保の面では、厳しい雇用状況の中、求職者と人材を求める企業の橋渡しを行う企業合同面接会を開催するとともに、人材の確保と育成の支援を図るため雇用に対する奨励金を交付しています。

平成22年度事業として実施した企業合同就職面接会には、市内22事業所が192人の求人を申し込み、求職者も255人が参加しました。

■農業の振興

農業については、平成21年に策定した柏市都市農業活性化計画にもとづき、つながりや都市資産を活かした魅力的な農業づくりが進められています。

3) アンケートおよびヒアリングの結果と分析

柏市産業振興戦略プランの策定に際して、市内産業の課題、事業者から見た柏市の強み・弱み、今後の展開方向などを分析するために、産業振興に関するアンケート調査およびヒアリング調査を実施しました。アンケート調査は市内事業所に対して、下記の内容で調査を実施し、事業を営む上での柏市の強みと弱み、今後の事業の方向についてご意見をいただきました。ヒアリング調査はより詳細な状況を把握するために実施し、柏市内事業者の状況や産業振興にかかる新たな提案などを把握しました。

i) アンケート集計結果の分析

■アンケート調査の実施方法

①対象事業所

柏市内の事業所を対象として、柏商工会議所、柏市沼南商工会の名簿から無作為抽出で 80 の事業所を抽出しました。また、これに加えて、後述のヒアリング対象の 20 の事業所も含めて、合計 100 の市内事業所に調査票を発送しました。

②内容

- i 柏市で事業を営む上での評価について
 - ・柏市で事業を営む上で高く評価できる点
 - ・柏市で事業を営む上で障害・脅威となる点
- ii 今後の事業展開の方向と関心のある分野について
 - ・今後の事業展開で重点を置く点
 - ・今後の事業展開にともなって、関心を持つ分野
- iii 今後の事業展開に際しての課題について
- iv 今後の事業展開に際しての支援について

③実施時期

平成 22 年 10 月

④回収結果

- ・発送数 100 事業所
- ・回収数 37 事業所（回収率 37%）

■回答事業所の概要

下記のように、幅広い業種、資本金規模、売上高、従業員規模の事業所から回答をいただき、ほぼ偏りのないご意見を把握しました。

①業種構成（回答 37 事業所）

小売・卸売 6 事業所、建設 4 事業所、電気工事 4 事業所、不動産・ビル管理 4 事業所、製造 3 事業所、飲食 2 事業所、産業廃棄物処理 2 事業所、サービス 2 事業所、その他各 1 事業所（ソフトウェア、運輸、修理、印刷、ホテル、自動車整備、病院、銀行、広告、専修学校）

②資本金（回答 31 社）

500 万円以下 9 社、1,000 万円以下 8 社、5,000 万円以下 10 社、5,000 万円以上 4 社

③ 売上高（回答 28 事業所）

5,000 万円以下 7 事業所、1 億円以下 5 事業所、5 億円以下 10 事業所、5 億円以上 6 事業所

④ 従業員

ア 正社員（回答 36 事業所）

4 人以下 15 事業所、10 人以下 3 事業所、30 人以下 13 事業所、30 人以上 5 事業所

イ パート（回答 30 事業所）

4 人以下 18 事業所、10 人以下 3 事業所、30 人以下 3 事業所、30 人以上 6 事業所

■回答事業所の内容 [複数回答]

回答事業所の業務内容は下記のとおりであり、柏市に本社機能を置く事業所が最も多く、次いで、生産機能、店舗となっており、柏市の産業構造を反映しています。また、支店、営業所、ショールームなどのサービス機能、研究機能、情報関連機能の事業所からも回答をいただきました。

設 問	回答数	比率%
本社等の統括機能	18	48.6
生産・製造系機能（工場など）	8	21.6
店舗（販売・レジャー・アミューズメント施設など）	7	18.9
その他	5	13.5
営業系機能（営業所・ショールームなど）	4	10.8
上記以外の管理及び業務・サービス機能（支社・支店、専門サービスなど）	3	8.1
研究開発系機能（研究所・設計・デザイン・試作部門など）	2	5.4
情報関連機能（データセンター・コールセンター・情報処理・ソフトウェア制作等）	2	5.4
物流系機能（配送センター・倉庫など）	0	0
回答事業所数	37	—

※「比率」はアンケート回答事業所の内、該当する設問に回答した事業所の比率。何れも以下同様。

■柏市で事業を営む上で高く評価できる点

評価できる点については、東京近郊のベッドタウンとしての都市環境が最も多く、次いで、高速道路、鉄道の便、東京都の近接性といった交通条件が多くなっています。また、労働力、顧客ユーザーの存在、企業間連携といった直接事業に関連する点の評価も高くなっています。

【問１】柏市で事業を営む上で、どのような条件が高く評価できると思われますか。評価できると思われる項目を選んで○印を記入して下さい。 [複数回答]		
設 問	回答数	比率%
東京近郊のベッドタウンとして住宅・居住環境が良い 【都市・生活環境】	23	62.1
高速道路への連絡の便が良い（常磐自動車道） 【交通・輸送】	16	43.2
在来鉄道の利用条件が良い（ＪＲ常磐線、東武野田線、ＴＸ 等） 【交通・輸送】	16	43.2
東京都心とのアクセスの便が良い 【交通・輸送】	16	43.2
臨時雇用者（パート、アルバイト、派遣他）が確保しやすい 【労働力・人材】	15	40.5
幹線道路の利用条件が良い（国道６号、国道１６号 等） 【交通・輸送】	13	35.1
顧客・ユーザー企業、受注先企業の集積 【産業集積と事業環境】	12	32.4
一般人材が確保しやすい 【労働力・人材】	11	29.7
その他企業間、異業種間での連携・協力 【産業集積と事業環境】	10	27.0
大学・研究機関や産業支援機関の集積 【産業集積と事業環境】	7	18.9
都市機能・サービスが充実（商業、医療・福祉、教育・文化等） 【都市・生活環境】	7	18.9
歴史文化環境・自然環境等の良さ 【都市・生活環境】	6	16.2
専門的人材が確保しやすい（技能・技術、情報、営業・販売） 【労働力・人材】	5	13.5
下請・外注・調達先企業の集積 【産業集積と事業環境】	5	13.5
高い農業生産高 【産業集積と事業環境】	5	13.5
その他 【その他】	3	8.1
回答事業所数	37	—

■柏市で事業を営む上での障害・脅威となる点

障害・脅威と感じられる点では、評価できるとされていた「交通条件」で渋滞が発生する点が最も多くなっています。次いで、大規模商業の立地による過当競争、また、歴史文化などの観光資源の不足が指摘されています。他には、中核企業の不足、高い地価、中心市街地の空洞化などの都市問題、人材の流出といった点が挙げられています。

【問2】柏市で事業を営む上で、どのようなことが障害・脅威と思われますか。評価できると思われる項目を選んで○印を記入して下さい。			
[複数回答]			
設 問	回答数	比率%	
交通渋滞 【交通・輸送】	24	64.9	
大規模商業の過当競争がおきている 【産業集積と事業環境】	16	43.2	
歴史文化などの観光資源が少ない 【都市・生活環境】	15	40.5	
地域産業の中核となる企業が少ない 【産業集積と事業環境】	14	37.8	
地価が高い、まとまった土地がない 【都市・生活環境】	12	32.4	
人材が東京など域外に流出している 【労働力・人材】	11	29.7	
中心市街地、地域商店街の空洞化がおきている 【都市・生活環境】	11	29.7	
高齢化に対応した交通システムの脆弱さ 【都市・生活環境】	10	27.0	
新幹線、空港などの広域交通網へのアクセス 【交通・輸送】	8	21.6	
産業の新分野展開の遅れ 【産業集積と事業環境】	7	18.9	
賃金が高い 【労働力・人材】	6	16.2	
道路網の脆弱さ 【交通・輸送】	5	13.5	
その他 【その他】	5	13.5	
企業の流出が続いている 【産業集積と事業環境】	4	10.8	
事業継承の後継者がいない 【労働力・人材】	3	8.1	
域外企業との連携による産業集積の活用 【産業集積と事業環境】	0	0	
回答事業所数	37	—	

■今後の事業展開で重点を置く点について

事業を進める上で重点を置く点については、営業販売力の強化が最も多く、厳しい経済状況を反映した回答になっています。次いで、技術・設備・サービスなどの強化を挙げている事業所が多く、競争に打ち勝つ機能強化を考えられています。また、新事業・新分野進出も検討されており、市場の変化への対応を検討されています。

【問3】貴事業所では、今後どのような方向に重点を置いて事業展開を考えておられますか。

以下のうち、該当する項目に○印を記入して下さい。 [2つ以内]

設 問	回答数	比率%
新たな顧客開拓・販路開拓など営業販売力の強化	22	59.5
技術、設備、サービスの強化（自動化・省力化、高効率化等）	11	29.7
従来とは異なる新事業・新分野への進出	9	24.3
特に考えていない	8	21.6
規模の拡大・強化（設備や要員の増強等）	4	10.8
新製品・新技術への対応力の強化	4	10.8
規模の縮小	1	2.7
回答事業所数	37	—

■今後の事業展開のにもなって関心を持つ分野

関心のある分野については、環境・エネルギー分野、生活・文化関連分野が最も多くなっています。次いで、医療・介護・健康関連となっており、国の新成長戦略の内容とほぼ同様の分野への関心が多くなっています。

【問 4】貴事業所では、今後の事業展開のにもなって、どのような分野に関心をお持ちですか。		
以下のうち、該当する項目に○印をつけて下さい。		[複数回答]
設 問	回答数	比率%
環境・エネルギー関連分野 (低炭素化、スマートシティ、バイオマス 他)	10	27.0
生活・文化関連分野 (生活一般、まちづくり・居住、日本文化 他)	10	27.0
医療・介護・健康関連分野 (医薬品、高齢社会対応サービス、健康食品 他)	9	24.3
情報・ソフト・映像関連分野 (IT、ソフト、コンテンツ、映像 他)	8	21.6
農業・食関連分野 (地産地消、食の安全、体験農業、植物工場 他)	8	21.6
観光・スポーツ・娯楽関連分野 (旅行、健康維持、趣味 他)	8	21.6
交通・物流関連分野 (次世代交通システム、次世代物流システム 他)	4	10.8
その他	4	10.8
回答事業所数	37	—

■今後の事業展開に際しての課題について

課題については、人材の育成が最も多く、市場変化への対応、技術の高度化、サービス向上といった分野に対応できる人材の育成が必要とされています。次いで、事業活動の基本となる、情報入手、後継者問題、運転資金、労働力、設備資金、設備老朽化対策となっています。

【問5】現在操業されている貴事業所の課題についておうかがいします。 以下のうち、該当する項目に○印を記入して下さい。		
[複数回答]		
設 問	回答数	比率%
人材の育成	16	43.2
有望なマーケットの発掘や的を絞るための情報が不足している	8	21.6
後継者、幹部候補者の不足	8	21.6
運転資金の不足	8	21.6
労働力の確保	7	18.9
設備投資資金の不足	7	18.9
設備・店舗の老朽化	7	18.9
効果的なPRができない	6	16.2
IT化の遅れ	3	8.1
国際化への対応の遅れ	3	8.1
新たな操業スペースの確保	3	8.1
その他	3	8.1
研究開発資金の不足	2	5.4
環境対応の遅れ	2	5.4
知的財産権（特許権等）の問題	2	5.4
調達先候補に関する情報の不足	1	2.7
大学・研究機関と連携したいが交流がない	1	2.7
デザインが魅力的ではない	1	2.7
協同事業の適当なパートナーが見つからない	0	0
回答事業所数	37	—

■今後の事業展開に際しての支援について

支援に関する要望は、資金調達と近年対応が迫られている環境対策への要望が多く、次いで、若手の育成、企業情報発信、マーケット情報収集となっています。

【問 6】 現在操業されている貴事業所の今後の事業展開に際して、市、県、国、公的支援機関等に期待する支援についておうかがいします。以下のうち、該当する項目に○印を記入して下さい。 [複数回答]		
設 問	回答数	比率%
資金調達に関する支援	11	29.7
環境対応に関する支援	10	27.0
若手育成への支援	9	24.3
ターゲットへの効果的情報発信の支援（展示会出展支援等）	7	18.9
マーケットの動向を把握するセミナー・研究会の充実	6	16.2
労働者確保への支援	5	13.5
国際展開支援	4	10.8
新たな操業スペースの確保に関する支援	4	10.8
デザイン力の強化	3	8.1
後継者、幹部候補者育成プログラムの提供	2	5.4
IT化に関する支援	2	5.4
協同事業パートナーとのマッチングに関する支援	2	5.4
調達先候補に関する情報の提供	1	2.7
知的財産権（特許権等）の取得、維持に関する支援	1	2.7
その他	1	2.7
回答事業所数	37	—

ii) ヒアリング調査の分析

■ヒアリング調査の実施方法

①対象企業

市内事業所から、業種、地域、規模等を勘案して抽出し、ヒアリング調査を実施するとともに、前述のアンケート調査も併せて実施しました。

②業種構成（回答 20 事業所）

小売・卸売 5 事業所、飲食・宿泊 3 事業所、建設 2 事業所、その他各 1 事業所（製造、不動産、運輸、自動車整備、病院、銀行、広告、専修学校、産業廃棄物処理、理容）

③立地場所

- ・旧柏地域（10 事業所）
- ・旧沼南地域（10 事業所）

④内容

- i 柏市で事業を営む上での評価（柏市の強み、弱み）
- ii 今後の事業展開の方向、関心のある分野
（事業展開方向、今後の関心分野）
- iii 今後の事業展開に際しての課題
- iv 今後の事業展開に際しての支援

⑤実施時期

平成 22 年 10 月

1 柏市で事業を営む上での評価について

①柏市の強み（高く評価できる条件）

高く評価できる点については、東京近郊という地理的条件からの交通条件、アクセス性が高く評価されています。産業面では、農商工のバランスがとれた産業構造で、産業と消費、住環境のバランスがとれたまちとの評価があります。

また、現在は人口が増加しており、新規の住民の増加、それに伴う消費の拡大などまちに活気があることも評価されています。そして、都市機能、サービス機能等の求心力があることから、他の地域からの来訪者も多く、これも経済効果、まちの活気などに繋がっており評価されている点であります。

最近では、複数ある農産物直販所などでの地元野菜の人気も高く、全国でも有数の収穫量を誇る地元野菜に対しても評価が高くなっています。

- 地理的条件から、交通条件、アクセス性を評価
- 農業も含めたバランスある産業構造
- 現状では人口が増加しており、まちに活力がある
- 周辺地域からの来訪者が多く、サービス機能が充実

②柏市の弱み（障害・脅威となる条件）

障害・脅威と感じられる点では、評価されている「交通条件の良さ」の反面、消費者の目や学生の通学先など、流出や意識が東京に向いてしまっていることが指摘されました。また、多様な産業や都市機能が充実している面の裏返しですが、機能の混在によりまちが雑多な感じがするとの指摘もあります。

また、郊外部の開発により大規模商業が立地することにより過当競争が起きており、同時に中心市街地の空洞化にも影響が出ているとの意見があります。他には、近年、産業構造の変化、経済環境の悪化、高い地価などの要因から、企業や顧客の域外流出といった点が挙げられており、事業の縮小にも繋がる問題が挙げられています。

- 消費や人材の東京への流出
- 土地利用の混在
- 郊外開発の影響による中心市街地の空洞化
- 企業や顧客の域外流出

2 今後の事業展開の方向、関心ある分野

①事業展開方向

今後の事業展開の方向については、収益性が見込める分野として、若者を対象とした教育関連サービス、高齢者を対象としたサービスなど、少子高齢化の流れを事業に取り込み新規展開を図るといった、これから顕在化する課題に対応する分野に着目する意見が出ています。

また、地域の特徴である農産物等の地元資源を活用した新分野への事業展開も重要視されています。

さらに、この様な新規分野への展開を消費に繋げていくとともに、域外からの需要を取り込むためのPRやイベントの開催などにより地域産業が競争に打ち勝ち、市場拡大に繋げていくための対応などが検討されています。

- 少子高齢化のニーズに的確に応える事業展開
- 地元産品を活用した新事業創出
- PRやイベントによる域外需要の取り込み

②今後の関心分野

今後の関心のある分野については、農業、食、観光関連の地域の資源を活用する分野に関心が高くなっています。また、今後市場が確実に拡大する、高齢者対応や医療・福祉分野にも関心が高いほか海外ニーズへの対応についても関心が高くなっています。

環境・エネルギー分野に対しては、既存の技術、製品など自社の強みを活かして、ニッチトップ分野に展開する方向を検討しているなどの回答も多くなっ

ており、これまでの事業領域を拡大して新たな展開を進めていける分野に着目している企業の動きが見られます。

- 農業、食、観光関連の地域資源を活用する分野
- 今後市場拡大する高齢者対応、医療分野
- 海外ニーズへの対応
- 環境対応、ニッチトップ等自社の強みを活かした分野

※ニッチトップ（企業）とは、規模が小さい隙間市場において高い市場シェアを誇る（企業）

3 今後の事業展開に際しての課題

今後の課題としては、地域の課題と連動した流れをつくる方向と、海外市場への展開などにより市場を拡大する二つの方向への展開が課題となっています。地域課題との連動では、柏のまちづくりと連携した事業展開の動きをつくり出し、住民のニーズに応えるといった動きを進めることが課題となっています。海外市場への展開では、顧客の空洞化に対応して、海外からの顧客の誘導や獲得、海外の情報の収集が課題となっています。

また、高齢化への対応も多面的な課題であり、顧客の高齢化、従業員の高齢化に対応するため、若者のニーズへの対応、それを受けとめる若手の従業員の獲得、育成なども挙げられています。

これらの課題に対応するためにも今後の事業展開に際して、新分野、新事業、新技術といった新たな事業展開への取り組みが課題としてあげられています。

- 柏のまちづくりに連動した事業展開
- 海外市場への事業展開
- 顧客、従業員の高齢化対応
- 新分野、新事業、新技術の事業への取り組み

4 今後の事業展開に際しての支援

事業展開の際の支援については、単独では費用、効果、手間などの点から効果的、継続的な対応を進めていくことが難しい情報収集・発信力の強化への要

望があり、特に、海外市場や海外展開に関する情報力強化の要望が多くなっています。また、全体的に地域の需要が低下していることから、域外からの顧客の誘導、来訪者の増加、これらに対応する新サービスの展開など、地域が一体的に進める必要がある支援も求められています。

- 海外も含めた情報収集・発信支援
- 新たな顧客の獲得、新サービスの提供支援
- 地域全体での一体的な取り組み

(3) 市内事業者の課題と柏市の強み

市内事業者が抱える課題を、材や資金、販路拡大などの経営の基盤に関する従前から抱えている課題と、昨今の社会経済情勢の変化などから対応を求められている新たな課題に分けて整理しました。また、今後の産業振興を進めていくうえで活かすことができる柏市の強みを整理しました。

1) 市内事業者の従来からの課題

市内事業者が従来から抱えている経営の基盤に関する課題は、売上げや出荷額の減少などの状況からも引き続き大きな課題となっていることがうかがえます。また、次のような点で、アンケート調査やヒアリング調査からも同様の意見をいただいています。

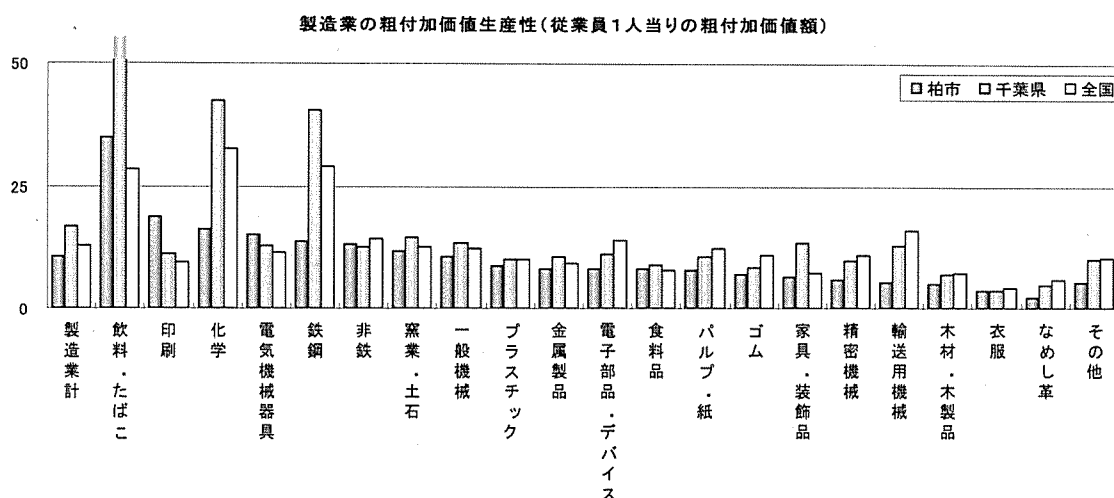
人材や労働力などの問題では、今後の事業継続、継承に際して、後継者、幹部候補生の不足は重要な点であり、継続的な対策が必要です。事業を支える資金の円滑化も重要な課題であり、さらに厳しい事業環境の中では、販路の拡大や新規顧客の獲得などのためにも、事業の効果的なPRが大きな課題となります。

- ・人材育成
- ・労働力確保
- ・後継者、幹部候補生不足
- ・円滑な資金（経営、設備）調達
- ・効果的な事業 PR

柏市産業の従来からの課題については、「柏市の産業構造[平成 20 年 4 月]」の統計データの分析から指摘することができます。

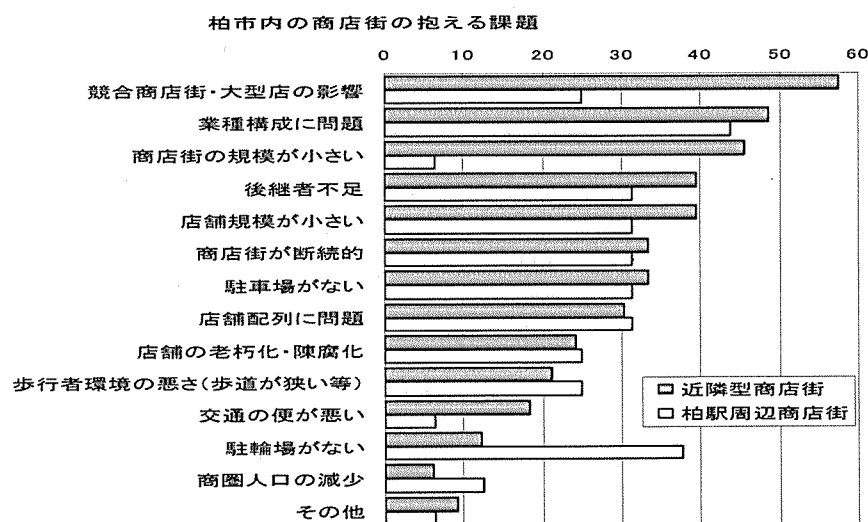
■製造業の人材育成（生産性の向上への取り組み）

製造業では、従業者一人あたりの粗付加価値額が、印刷、電気機械、非鉄金属などの一部の業種以外では、千葉県、全国の水準と比較して低い水準にあり、労働集約的な生産環境を改善すると共に、高度な技術、先進的な能力を人材育成により身につけることが望めます。



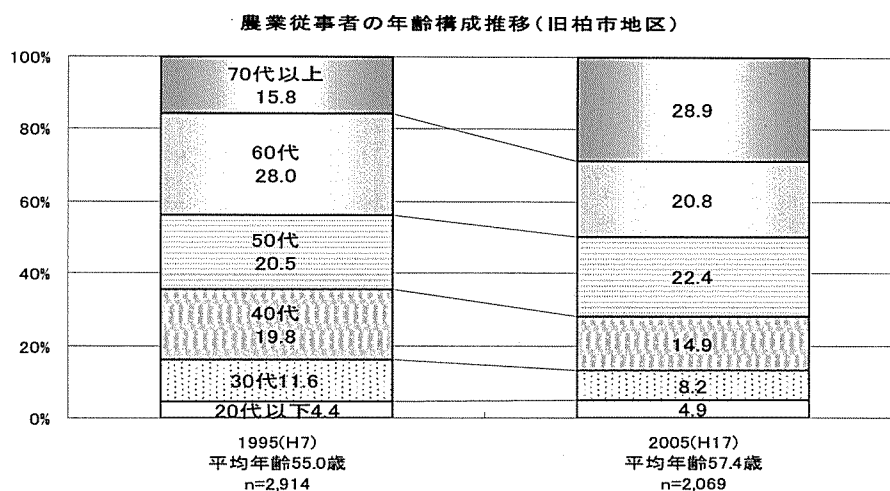
■商業の後継者不足

商業では後継者不足が大きな課題です。柏商工会議所が実施した、柏市商店会実態調査（平成 12 年度）で、「柏市内の商店街の抱える課題」として、他の商店街・大型店の影響、業種構成、商店街の規模に次いで、後継者不足が課題とされています。特に、この傾向は柏駅前の商店街よりも、近隣商店街で高い傾向にあります。



■農業従事者の高齢化

農業では、農林業センサス（成 17 年度）によれば、平成 7 年と 17 年の柏市の農業従事者の年齢構成推移で、70 歳以上の比率が 15.8%から 28.9%に増加しています。約 3 割が 70 歳以上であり、平均年齢も 55.0 歳から 57.4 歳に上昇しており、若手の参入が課題となっています。



2) 市内事業者の新たな課題

我が国の経済産業の現状は、前述の「我が国を取り巻く状況変化」で整理したように、①我が国産業の国際競争力の低下、②生産拠点の海外移転に伴う地域産業の空洞化、③人口減少に伴う国内市場の縮小、④需要構造の変化に対応した新たな産業創出の課題、が示されています。

また、このような社会経済の問題・課題を背景に、柏市の産業も新たな課題に直面しており、今回実施した市内事業者に対するアンケート、ヒアリング調査でも指摘されています。国全体の環境変化への対応の必要性、またそれを背景とした市内事業者が新たに直面している課題を整理すると次のような点が主に指摘できます。

第一は、我が国産業の競争力の低下、海外展開の影響などから、多様化するマーケットの情報やユーザーのニーズ変化等に対応するための情報不足といった情報面の課題が挙げられています。さらに人口減少や他の要因によるマーケットの縮小、高齢化など需要構造の変化に伴う対応も新たな課題となっています。次いで、我が国産業の国際化が急速に進展する中で、市内企業も対応を求められており、企業自らの国際化と顧客の海外移転への対応などが新たな課題として挙げられます。そして、経済産業全般の競争力低下、空洞化、国内市場縮小等の状況変化に対応するため、市内企業の取引先である大手企業も受発注の統合化や新規市場の拡大を進めており、このような動きの結果として、取引先企業の市内企業への事業発注の減少が問題となっています。合わせて、地域の市場が縮小する中で、大手企業の参入などによるさらなる競争の激化、商圈の縮小などへの課題にも直面しています。

加えて、平成23年3月に発生した東北地方太平洋沖地震により売り上げ減少、生産活動の制約等の事態が発生し、これに伴う資金繰りの悪化等の課題にも直面しています。

- ・ マーケットの情報の不足
- ・ 市場の縮小とニーズ変化
- ・ 国際化対応、顧客の海外移転
- ・ 大規模資本の事業発注減少
- ・ 競争相手の増加
- ・ 東北地方太平洋沖地震による資金繰りの悪化

柏市産業の新たな課題に関してまとめると以上のような点に絞ることができませんが、前述のアンケート、ヒアリング調査結果から述べられた課題を詳しく見ると次のような意見がありました。

■市場ニーズの変化に対応するための情報不足

少子高齢化、若年層の購買意欲の縮小、経済の停滞による消費の縮小など、近年の市場の変化が大きく、これらに対応するためのマーケット情報が不足しているとの指摘がありました。このような情報入手に関しては、企業単独で情報収集することは、情報収集ノウハウや情報入手に必要なコストなどの負担で難しい側面があり、何らかの支援が必要との要望もあります。

■国際化の進展への対応

海外からの顧客の取り込み、顧客企業の海外移転など、市場が国際展開する中で、海外でのPR、海外展開している顧客への対応（営業、アフターサービス、情報入手）など、国際化への対応が多くの企業の課題となっています。特に、国際化に関しては、地域産業が共同で取り組む（PR、情報提供・入手）ことが大きな効果を生むことになり、地域での総合的な対応が望まれています。

■大規模資本の地域での発注減少、競争相手の増加

大手資本においても、競争力強化、コストダウンの要請により、調達・発注などを統合し、一括して発注する傾向が強くなっています。これにより、今まで事業所が単独で発注していた市内企業への商品の調達や業務発注が、全社一括の大量発注に変わったため、地域での業務が減少しています。また、地域の市場への大手企業の参入などにより、市内企業の事業環境がより一層厳しくなっています。

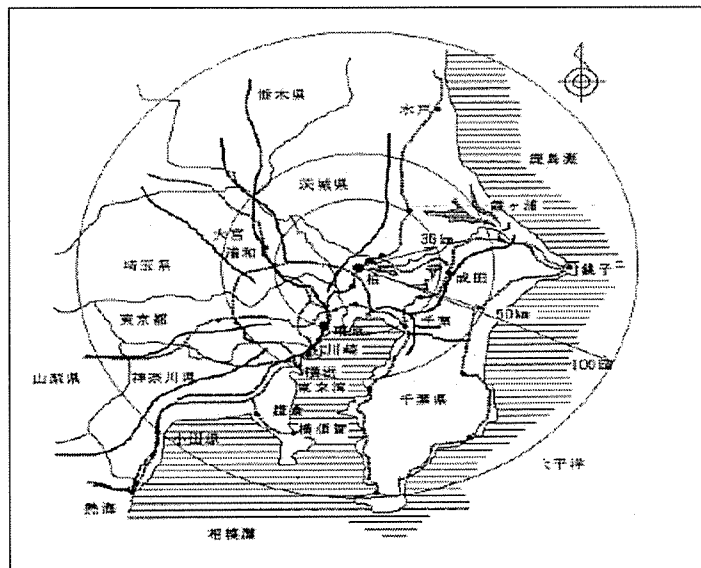
3) 柏市の強み

柏市を取り巻く状況、アンケート調査、ヒアリング調査の結果、関連する各種のデータなどから整理する柏市の強みとしては、次のような点が挙げられます。

■良好な交通環境とマーケットへの近接性

柏市は、千葉県の北西部に位置し、東京都心から約30キロ圏にあります。鉄道は都心から放射状にJR常磐線及びつくばエクスプレスが、南北には東武鉄道・野田線が通っています。道路は東京・茨城方面への国道6号や常磐高速自動車道、埼玉・千葉方面への国道16号が通っており、首都圏の放射・環状両方向の交通幹線の交差点に位置する交通の要衝となっています。これらの恵まれた交通条件により、首都圏の大市場への近接性が優れており、多様な事業所が立地しています。

また、つくばエクスプレスの開通により、利便性が向上した秋葉原を入り口とするビジネスセンター東京と、わが国の学術・研究機能の最大の集積地であるつくばとの中間点に位置することも柏市の強みとなります。



■良好な生活環境

・柏市の恵まれた生活環境を背景とし、柏市の人口は一貫して増加傾向にあり、今後もしばらくは増加していくことが予測されています。つくばエクスプレス開通による新規の住居地域の拡大もありますが、新規の居住者が柏市の居住地域としての魅力を認めて選択した結果だと思われます。

・ 中心市街地商業機能の集積、様々なサービス業機能、医療環境や学校施設の充実も良好な生活環境を支える柏市の強みとなります。

■恵まれた農業資源と自然環境

・ 柏市の生産農業所得及び農業産出額は県内 5 位と上位に位置付けられています。

県内市町村の生産農業所得と農業産出額																					
(単位:千万円)	生産農業所得	農 業 産 出													額 参考(1,000円)						
		小計 ①	耕 種										畜 産		加 工 農産物		計 ①+②+③	業た 所り 生1 産戸 農当	業た 所り 生1 産戸 農当	業た 所り 生1 産戸 農当	業た 所り 生1 産戸 農当
			米	麦類	雑穀	豆類	いも類	野菜	果実	花き	工業農作物	種苗・苗木・その他	②	③							
1	旭市	1,500	2,486	465	1	-	16	44	1,689	13	209	43	6	1,630	-	4,116	4,802	231			
2	銚子市	977	1,751	84	-	-	2	12	1,622	0	31	-	0	647	-	2,398	7,235	357			
3	八街市	632	1,248	15	3	-	85	162	931	7	29	2	16	218	-	1,466	4,008	169			
4	富里市	534	1,069	22	1	-	39	60	859	11	64	1	14	102	-	1,172	4,861	205			
5	柏市	499	1,036	144	2	0	1	11	804	66	10	-	0	43	-	1,078	2,581	185			
6	船橋市	466	898	16	-	-	1	10	665	193	14	-	0	60	-	957	3,970	331			
7	野田市	435	851	139	6	0	3	6	683	9	6	-	0	144	-	995	1,924	157			
8	千葉市	423	783	91	1	0	72	30	481	16	85	1	7	338	-	1,121	1,451	101			
9	市原市	408	744	367	3	0	38	22	232	67	11	1	4	472	-	1,215	822	66			
10	佐原市	403	940	510	2	-	8	261	124	27	4	4	1	231	2	1,173	1,479	72			
11	多古町	392	774	197	0	-	7	217	323	5	14	7	5	311	-	1,085	2,484	120			
12	山田町	357	535	152	0	-	7	135	209	5	15	10	2	586	-	1,121	3,460	155			
13	松戸市	323	646	9	-	-	0	4	554	73	5	-	0	4	-	649	3,567	399			
14	大栄町	310	615	76	0	-	4	340	176	5	7	0	7	214	-	829	3,161	142			
15	八日市場市	302	675	324	0	-	7	9	181	0	17	12	124	174	-	849	1,492	73			
16	東庄町	297	446	151	0	-	8	18	215	0	34	6	14	451	-	897	3,050	148			
17	袖ヶ浦市	276	497	156	-	-	41	60	204	5	25	1	6	361	0	858	1,741	104			
18	芝山町	275	590	66	0	-	9	22	409	2	75	0	8	20	-	611	3,648	173			
19	君津市	263	465	219	0	-	14	25	151	10	32	0	13	451	0	916	858	76			
20	市川市	253	483	0	-	-	0	2	144	288	48	-	0	1	-	484	4,090	439			

資料：農林水産省「平成17年市町村別生産農業所得統計」

・ また、かぶ・ねぎ・ほうれんそうは、いずれも全国市町村ベースでトップ10入りしており、かぶ・ねぎ・ほうれんそうなどの野菜生産の優位性がうかがえます。

柏市野菜トップ3の収穫量順位(市町村別 上位10位)						
	かぶ		ねぎ		ほうれんそう	
順位	市町村	収穫量	市町村	収穫量	市町村	収穫量
1位	千葉県 柏市	15,200	埼玉県 深谷市	27,750	岐阜県 高山市	8,660
2位	千葉県 東庄町	6,860	茨城県 坂東市	16,850	埼玉県 深谷市	6,440
3位	千葉県 松戸市	6,040	埼玉県 熊谷市	11,231	徳島県 徳島市	5,720
4位	埼玉県 川越市	4,610	千葉県 松戸市	8,300	群馬県 太田市	5,610
5位	青森県 野辺地町	2,990	大分県 豊後高田市	8,130	群馬県 伊勢崎市	4,990
6位	千葉県 船橋市	2,850	千葉県 柏市	7,980	千葉県 野田市	4,870
7位	新潟県 新潟市	2,620	千葉県 山武市	7,741	千葉県 柏市	4,850
8位	京都府 京都市	2,390	群馬県 太田市	6,358	千葉県 船橋市	4,810
9位	青森県 東北町	2,050	鳥取県 米子市	6,300	福岡県 久留米市	4,720
10位	山形県 鶴岡市	2,000	埼玉県 本庄市	5,654	神奈川県 横浜市	4,070

(収穫量単位:t)

資料：農林水産省 野菜生産出荷統計 (平成17年)

・ このような県内でも有数の農業を支える農地のほか、あけぼの山農業公園、手賀沼周辺、手賀の丘公園を始めとした自然環境に親しむための空間など都

市部に位置しながら豊かな自然環境を有しています。

■成長戦略分野に関連するプロジェクトの存在

柏市では、環境対応や交通システムなどの国の成長戦略分野に関連する実証・実験プロジェクトが動き始めており、これらのプロジェクトの今後の発展が期待されています。

○柏の葉スマートシティプロジェクト

柏の葉スマートシティプロジェクトは、柏市北部のつくばエクスプレス柏の葉駅周辺地域で進められている新たなまちづくりの現場をフィールドとして、グローバル展開する企業連合が実験プロジェクトに参加して、再生可能エネルギーの導入や省エネルギーの促進など次世代環境都市の形成を目指した取り組みが進められています。

○ITS実証実験モデル都市

柏市は平成21年6月に、全国で4番目となる「ITS実証実験モデル都市」に選ばれ、次世代のモビリティ（移動交通）の検討や検証が進められています。

ITS（Intelligent Transport Systems）とは「高度道路交通システム」のことを指し、渋滞・事故・大気汚染・高齢者利用など、道路交通が抱える様々な問題を、最先端の情報通信や制御の技術によって解決し、安全・快適で環境に優しい交通システムの構築を進めるため、各国が国家レベルのプロジェクトとして取り組んでおり、日本でも国土交通省、総務省、経済産業省、警察庁などが連携して研究開発を推進しているシステムです。

■力のある新しい公共の担い手の存在

柏市内の市民公益活動団体は300を超え、活発な市民活動が展開されています。これらはまちづくりを進めていく上で大きな力となり、まちの賑わいを創出するさまざまなイベントの開催のほか、民間主導による起業家支援の取り組みなども行われています。また、柏市にはさまざまな分野で活躍する豊富な人材もあり、柏市の強みとなっています。

○柏市インフォメーション協会

柏市インフォメーション協会は、市民や来街者に対して、柏市と近隣市の行政情報や地域情報、民間情報など暮らしに役立つ様々な情報を提供する事業や、市民が主体となって活動する団体との交流、支援や連携により人にやさしい街づくりを進めています。これらの活動には、インフォメーション協会のほか、その活動に賛同する企業や団体、多くの市民ボランティアが参加しています。

○TXアントレプレナーパートナーズ

多くの先端技術や先進的研究が集まるつくばエクスプレス沿線を中心に、起業家やベンチャー企業を育成、支援しています。つくばエクスプレス沿線の研究者・起業家と、メンター(指導者)やエンジェル(投資家)などビジネスパートナーのチーム組成をサポートし、起業家を支援する環境を整備することにより、ベンチャー創業や成長を助ける志を持つ人たちの地域コミュニティを創り、成功モデルとなるようなベンチャー企業を輩出するなど、起業活動の支援を行っています。

■国、県等の関係機関、大学・研究機関との強いネットワーク

柏市近隣地域には、先端学術研究から新しい産業分野の創成が期待される東京大学柏キャンパスをはじめ、千葉大学環境健康フィールド科学センター、東京理科大学(野田市)、国立がんセンターなど多様な学術研究機能が集積しています。こうした学術研究機関と企業を結び付け、新産業の創出へと結び付けていく東葛テクノプラザや東大柏ベンチャープラザなどの支援機関も整備され、ネットワークを活かした活動が展開されています。また、国や県、関係機関への職員の派遣などを通じた連携体制の構築や迅速な情報把握も産業振興を図る上での強みとなっています。



東葛テクノプラザ



東大柏ベンチャープラザ

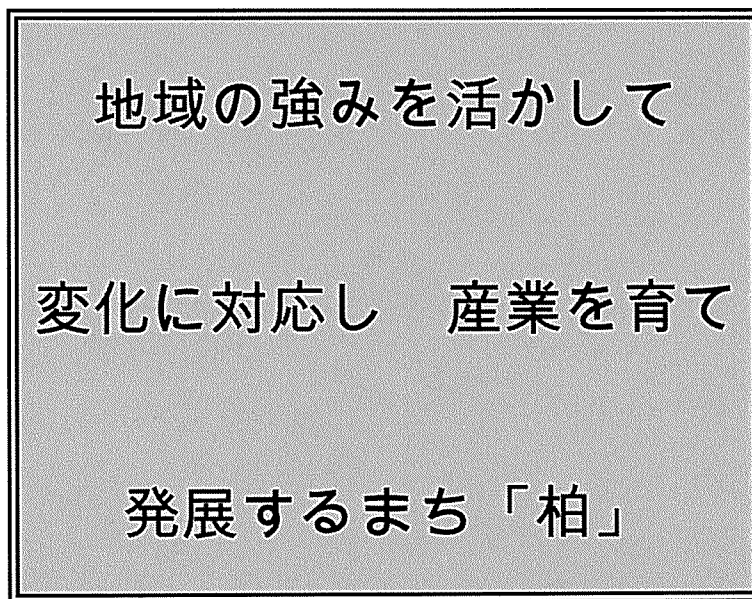
3 柏市産業の新たな発展方向

わが国および柏市の状況変化、柏市内事業者の課題を踏まえるとともに、柏市の強み・弱みを認識することで、次のように「柏市産業の新たな発展方向」を設定しました。

また、これを基に、柏市産業の新たな発展方向を実現するための施策・事業を重点化、体系化、プロジェクト化し、「柏市産業振興戦略プランの基本的考え方」をまとめました。

(1) 柏市産業の新たな発展方向

柏市産業が問題・課題を解決しながら、新たに発展し事業を続けていくために、これからの柏市産業の新たな発展方向を次のように設定しました。



さまざまな企業がこれまで以上に連携や協力を推進していく中で新たな産業や事業機会の創出が期待できます。柏市には様々な分野で活躍する企業やNPOなどが存在し、多様で豊富な人材がいます。産業分野を横断的に捕らえ、相互に関連性を持たせながら、様々な連携や協力の強化を促していく産業振興が求められています。

柏市の産業の新たな発展方向を実現していくため、行政は、次のような視点に基づき、行政の強みであるネットワークなどを活用しながら、事業者が活動しやすく、産業が発展していける環境づくりや仕組みづくりに取り組んでいくこととします。

◆地域の強みを活かす

柏市には、交通の利便性やマーケットへの近接性、学術研究機関や産業支援機関の集積、今後成長が見込める分野での社会実験の存在など、柏市の産業活性化を図っていくうえでさまざまな強みがあります。市は、このような強みについて、十分に分析・把握した上で、内外にPRするとともに、事業者の皆様が活用できるようなコーディネート等の役割を担っていきます。

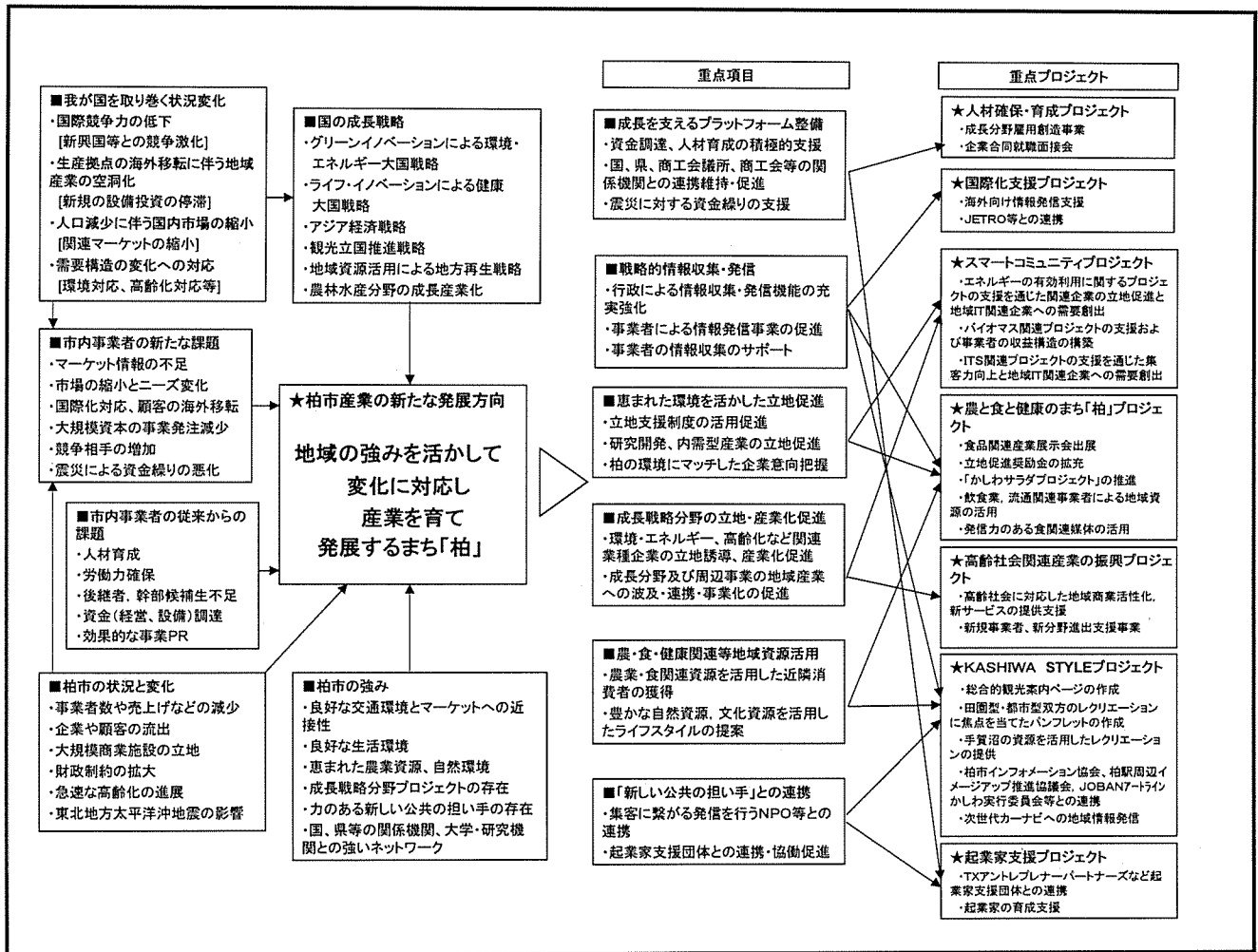
◆変化に対応する

国際競争の激化、環境問題に対する意識の高まり、今後急激に進む高齢化の進展など、柏市の産業を取り巻く環境は変化しており、これに伴う新たな課題が発生しています。市は、このような変化及びこれに伴う課題を的確に捕らえ、地域の強みを活かすこと等によって、自ら対応策を講じるとともに、事業者の皆様が対応できるように環境整備に取り組みます。

◆産業を育て発展する

事業者が収益力向上を実現できるよう取り組むことはもちろんのこと、柏市の強みに合致する業種・業態の事業所の重点的誘致活動、新規創業・開業者のための環境整備にも取り組み、柏市の産業を育て発展させます。

(2) 柏市産業振興戦略プランの基本的考え方



4 重点項目

柏市産業の新たな発展方向を具体化していくうえで、必要な施策・事業を効果的に実現するために産業振興戦略の重点項目を設定しました。重点項目とは、柏市産業の新たな発展方向をふまえ、実際の柏市産業に関連する課題や強みに照らし、重点的に実施すべきことを体系的に整理し項目にしたものです。

(1) 成長を支えるプラットフォーム整備

- ・ 資金調達、人材育成の積極的支援〔金融支援、雇用創出、就業支援 他〕
- ・ 国、県、商工団体等の関係機関との連携維持・促進
- ・ 震災に対する資金繰りの支援

柏市の産業を取り巻く状況は依然として厳しい状況が続いています。人材育成、労働力確保、後継者育成といった人材・雇用面、また、運転資金、設備投資資金といった金融面の課題を依然として多くの企業が抱えています。

柏市においては、これら企業の抱えている基本的な課題に対して、地域産業が活力ある企業活動を行うための資金面や人材面での「プラットフォーム」を整備し、国、県、商工会議所などの支援機関、地域の教育機関等とのネットワークを活用した取り組みを進めていきます。

また、東北地方太平洋沖地震をふまえ資金繰りの円滑化に向けた支援を行っています。

《柏市産業の状況と抱える課題》

- ◆ 労働力確保
- ◆ 人材育成
- ◆ 円滑な資金（経営・設備）調達
- ◆ 災害による資金繰りの悪化

《柏市の強み》

- ◆ 国、県等関係機関との強いネットワーク
- ◆ 商工会議所、商工会等商工団体との強いネットワーク

《具体事業の例示》

- ◆ 商工会議所と連携した地域企業への資金融資体制
- ◆ 販路拡大などの支援
- ◆ ハローワークと協力した就業支援、雇用確保事業
- ◆ 震災に対応した融資関連支援策等の事業者への積極的紹介

(2) 戦略的情報収集・発信

- ・行政による情報収集・発信機能の充実強化
- ・事業者による情報発信事業の促進
- ・事業者の情報収集のサポート

産業活動においては、顧客・市場ニーズの変化、競争相手の状況などを的確に把握し、事業に反映することが必須であり、柏市に立地する企業も例外ではありません。このような状況下では、企業情報を積極的に外部に発信し、市場環境への対応などを進める必要があります、市内企業からも情報発信に関する支援ニーズもあります。

柏市では、市内の中小企業が実施する情報発信、収集活動のための支援を行うとともに、行政が地域企業の情報発信に積極的にかかわることにより、市内企業の情報発信をより充実強化します。

また、集客力の向上や様々な主体の交流、新たな企業の立地によるまちの活性化が産業振興に与える影響も大きく、柏市のさまざまな魅力を戦略的に発信していくことにより、まちの賑わいを創出して産業の振興につなげていきます。

《柏市産業の状況と抱える課題》

- ◆効率的な事業PR
- ◆マーケット情報の不足
- ◆国際化対応、顧客の海外移転

《柏市の強み》

- ◆関係機関とのネットワーク
- ◆恵まれた農業資源、自然環境
- ◆力のある新しい公共の担い手の存在

《具体事業の例示》

- ◆「ものづくり電子プラザ」や「るつくふお・かしわ」などの充実
- ◆関係機関連携による集客イベントの開催
- ◆地域企業の国内、海外の展示会、フェアへの出展支援
- ◆効果的な情報収集、発信の促進

(3) 恵まれた環境を活かした立地促進

- ・ 立地支援制度の活用促進
- ・ 研究開発、内需型産業の立地促進
- ・ 柏の環境にマッチした企業意向把握

柏市においては、企業の移転、廃業による事業所の減少が依然として続いています。厳しい状況下で、海外移転が進む一方、事業所の集約化、新規分野展開などに対応した企業立地はより条件の良い地域に選択的に集中しており、地方展開した事業所が大都市圏およびその周辺地域にUターンする状況も生まれています。

柏市は、地域の強みとして「交通条件」「都市機能」「人材集積」「支援・学術機関の集積」などの恵まれた立地環境を持っています。また、柏市には、千葉県の都市部では有数の農業生産高を誇るなどの強みがあります。企業の立地は、雇用の場の創出や税収の確保からも大きな影響を持っており、柏市が持つ特性や強みを活かすことができる内需型産業（例えば食品加工産業、セントラルキッチン）や研究開発型産業などの立地活動などを進めます。

《柏市産業の状況と抱える課題》

- ◆事業所数や売上の減少、立地動向の低迷
- ◆企業や顧客の流出
- ◆財政制約の拡大

《柏市の強み》

- ◆良好な生活環境
- ◆良好な交通環境とマーケットへの近接性
- ◆恵まれた農業資源
- ◆国、県等関係機関、大学、研究機関とのネットワーク

《具体事業の例示》

- ◆企業の立地動向の把握
- ◆柏市の立地条件を優位とする産業機能（研究所、情報産業、サービス産業）の立地促進
- ◆地域の農産品を活用する食品関連企業等の立地促進

(4) 成長戦略分野の立地・産業化促進

- ・ 環境・エネルギー、高齢化など関連業種企業の立地誘導、産業化促進
- ・ 成長分野及び周辺事業の地域産業への波及・連携・事業化の促進

国の成長戦略分野を支える産業群は、分野ごとに関連企業が連携しコンソーシアムを構成するなど、具体事業の構築を始めています。このような動きは、成長産業分野のモデル事業や社会実験、具体化方策の検討など、新たな立地展開や地域産業とのコラボレーションに結びつくことが期待されています。

すでに柏市では、環境・エネルギー、高齢化・健康といった分野で、スマートシティ、スマートアクセス、高齢者対応に関する社会実験が始まっており、今後は、実験段階から実際の事業実施へと移行する時期を迎えていくことになります。これらの事業を積極的に受け入れるとともに、産業振興の観点から参画することにより関連産業の立地促進を図り、関連する分野の地域産業や需要者となる市民と成長産業の連携を促進します。また、今後柏市は急速に高齢化を迎えることから、高齢化に対応する地域に密着した新たなサービスの産業化も支援していきます。

《柏市産業の状況と抱える課題》

- ◆製造業事業所の減少，立地動向の低迷
- ◆従来分野における国際競争力の低下
- ◆大規模資本の事業発注減少
- ◆急速な高齢化の進展

《柏市の強み》

- ◆環境・エネルギーなどの成長戦略分野のプロジェクトの存在

《具体事業の例示》

- ◆社会実験参加企業への地域定着（立地誘導）の働きかけ
- ◆地域の既存事業者の新規事業への参入や市場開拓支援

(5) 農・食・健康関連等地域資源活用

- ・ 農業・食関連資源を活用した近隣消費者の獲得
- ・ 豊かな自然資源、文化資源を活用したライフスタイルの提案

柏市は、魅力ある都市機能に併せて、豊かな自然環境も有しており、その環境を活かした農業も盛んです。全国一の生産量を誇るかぶの他、ねぎやほうれんそうなど千葉県都市部でも上位の農業生産実績があり、このような恵まれた環境を活かし、地域の農業者も都市型農業の確立を目指し、直販所や体験農業などに取り組んでいます。また、さまざまな農産物を活用し、新商品の開発や地産地消を推進するためのイベントなども行われています。

食の安全や健康に対する意識が向上する中、さまざまな主体と連携を図りながらこのような取り組みを支援するとともに、積極的に情報を発信していくことで近隣消費者を獲得し、新たな産業化を促していきます。

また、手賀エリアを代表とする、「自然環境」を活かした都市型観光を促進するとともに、健康的な市民生活やライフスタイルの提案等により、新たな需要を掘り起こして集客を図っていきます。

《柏市産業の状況と抱える課題》

- ◆ 競争相手の増加
- ◆ 市場の縮小とニーズの変化

《柏市の強み》

- ◆ 恵まれた農業資源、自然環境
- ◆ 良好な交通環境とマーケットへの近接性

《具体事業の例示》

- ◆ 地元産品を活用した飲食店や小売店、レシピ等のPR
- ◆ 関係団体等と連携した来訪者の誘導
- ◆ 実験プロジェクト（ITS等）を利用した地域情報の提供
- ◆ 地域の特性を活かした都市型観光の促進

(6)「新しい公共」の担い手との連携

- ・ 集客に繋がる発信を行うNPO等との連携
- ・ 起業家支援団体との連携・協働促進

今後の地域発展は、成長の流れを引き込むだけではなく、地域主権のもとで自らいきいきとした地域を実現するため、地域資源や人材を発見し、活用することで地域を構築していく方向にシフトしてきています。

柏市には、さまざまな分野で活躍する豊富な人材が存在し、NPOなどの活動も活発に展開されています。このような市民活動と協働し、次代を担う「新しい公共」の担い手と連携した産業振興、地域づくりを進めていきます。

また、地域における起業化の動きに対応するため、起業家支援団体等の動きと連携し、これらの動きがこれからの地域を支える新たな産業として発展していくための支援を進めていきます。

《柏市産業の抱える課題》

- ◆ 財政上の制約
- ◆ 効果的な事業PR

《柏市の強み》

- ◆ 力のある新しい公共の担い手の存在
- ◆ 国、県等の関係機関、大学・研究機関との強いネットワーク

《具体事業の例示》

- ◆ 柏市のイメージ向上に貢献するNPOとの連携による地域PR
- ◆ 地域情報の提供による周辺地域からの集客増強
- ◆ 起業家支援団体との連携による地域での起業家支援

5 重点プロジェクト

6つの重点項目を踏まえ、その要素を複合的に加味し、重点的に実施していくべき事業を推進するために戦略的にグルーピングしたものが、重点プロジェクトです。

(1) 人材確保・育成プロジェクト

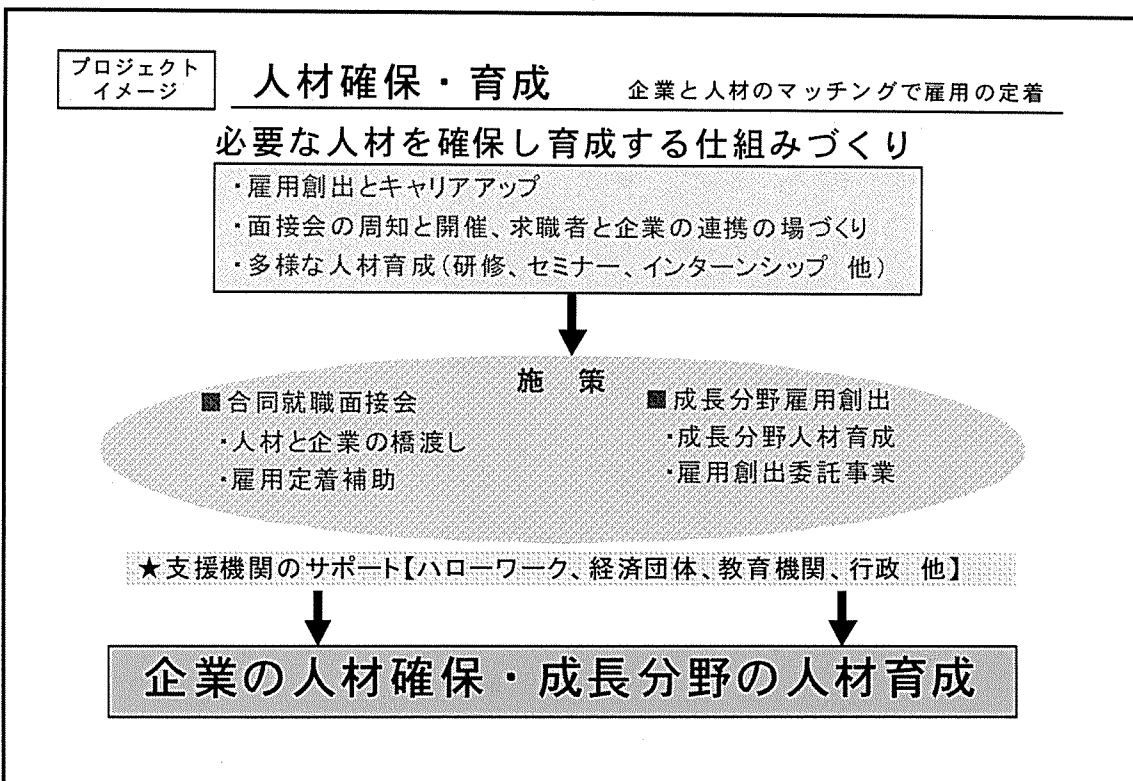
柏市における雇用の創出と地域における人材の定着を促進していくため、人材を求める企業と求職者の橋渡しや定着支援、また企業が必要とする人材の育成に取り組みます。

目 標	■企業の人材確保・成長分野人材の育成 ↓ ↓ ↓ ・雇用創出、就業支援 ・企業の人材確保、人材育成、後継者養成支援
事業内容	■成長分野雇用創造事業 国の交付金を活用し、市の委託事業で成長分野の事業に取り組む市内企業の人材確保と人材育成を支援し、事業化を推進することで雇用の創出を図っていきます。 ・事業推進の支援による雇用創出 ・成長分野事業へのチャレンジと事業を担える人材育成 ■企業合同就職面接会 ハローワークと連携し、人材を求める市内の企業を開拓し、仕事を求める求職者のマッチングを行います。また、雇用奨励金を交付し、企業の人材の確保と育成を支援し、雇用の定着を図っていきます。 ・人材を求める企業への橋渡し ・雇用促進奨励金交付による人材確保支援

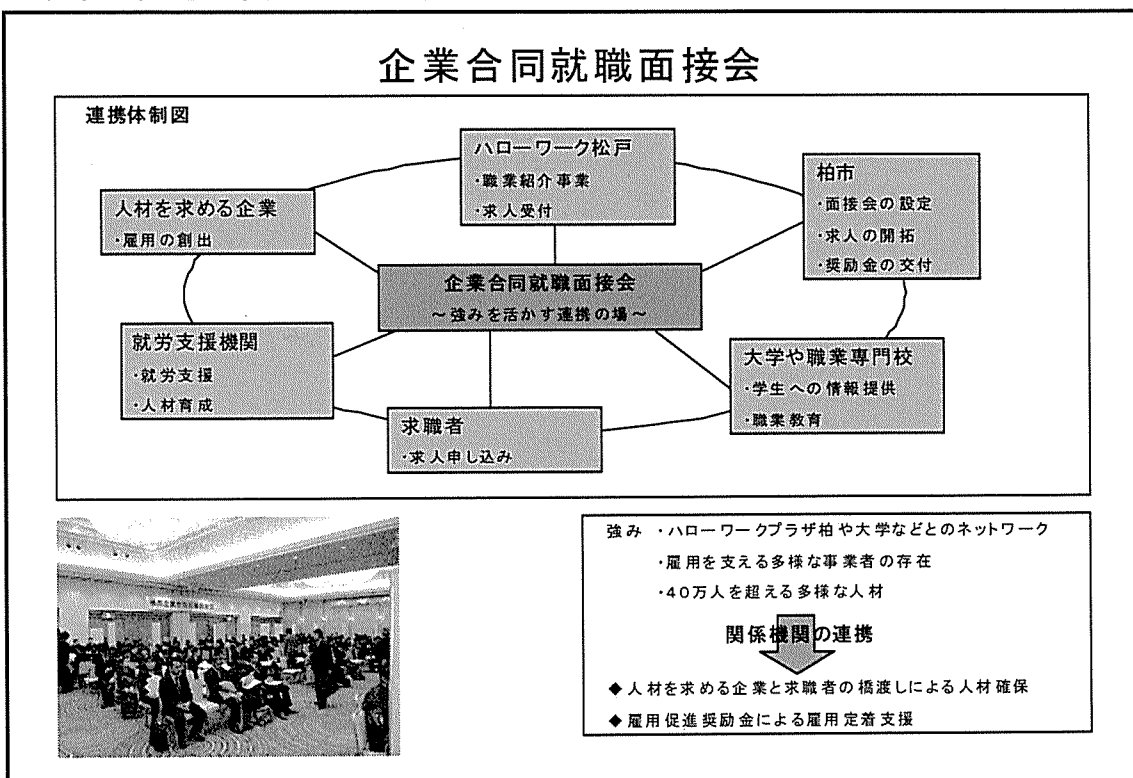
参 画 者 関係機関	・ 地域企業 ・ 求職者（学生、社会人） ・ 地域の教育機関 ・ ハローワーク ・ 就労支援、職業能力開発機関 ・ 柏市
その他	・ 関係機関との連携による雇用創出を図り、後継者の育成の観点からも、インターシップなども活用しながら人材の確保と育成を進める。 ・ 新規学卒者も含めた雇用対策を進めていくことで、地域での雇用の増加を進める。 ・ 雇用情報提供は、雇用先企業や関係機関などの参加・協力が重要であるため、積極的に参加を呼びかけ、連携協力をコーディネートしていく。

◆本プロジェクトと事業内容のイメージは次ページの通りです。

■人材確保・育成のプロジェクトイメージ



■事業内容【企業合同就職面接会】



(2) 国際化支援プロジェクト

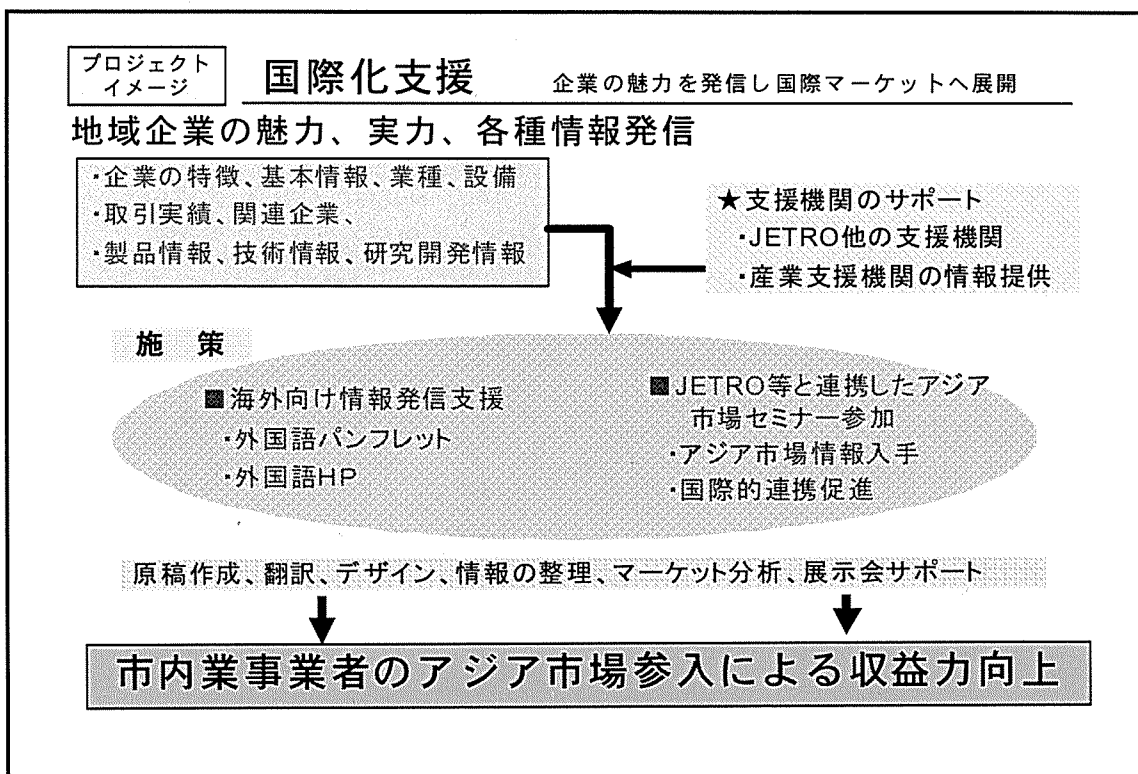
地域の企業が、国際市場に展開するための支援を行います。特に、近年大きく拡大しているアジア市場への参入のための海外向け企業情報の発信、また海外市場の現状等の情報収集支援を行い、地域企業の国際化に向けた支援を進めていきます。

目 標	■市内事業者のアジア市場参入による収益力向上 ↓ ↓ ↓ ・国際的な市場拡大、新規マーケットへの展開 ・新サービス、新事業への展開 ・新たな需要の獲得
事業内容	■海外向け情報発信支援 海外市場への展開を検討する市内企業を支援するため、外国語パンフレットやホームページなどの作成に対する助成制度を設けて企業の情報発信を支援します。 ・外国語パンフレット・ホームページ等作成費の補助 ■JETORO等との連携 日本貿易振興機構など関係機関と連携し、海外の市場情報の把握や提供、セミナーなどを開催し、市内企業の海外販路の開拓支援を行います。 ・主としてアジアを中心とした海外市場情報入手支援
参 画 者 関係機関	・地域企業 ・産業支援機関 ・国、県の関係機関 ・柏市

その他	・事業実施に際しては民間企業の国際化へのニーズを集約し、ターゲットを絞って効果的に実施する。 ・企業の国際化支援については専門的なノウハウが必要となってくるため、関係機関との協力体制の構築を図っていくとともに、その中で外国企業の誘致などについても情報の把握を進めていく。
-----	--

◆本プロジェクトのイメージは次の通りです。

■国際化支援のプロジェクトイメージ



(3) スマートコミュニティプロジェクト

成長戦略分野である環境・エネルギー分野のプロジェクトの支援を通じて、関連企業の立地促進、収益力向上等を目指します。また、ＩＴＳ（高度道路交通システム）プロジェクトを通じて、店舗・集客施設へのスマートなアクセスの実現、地域ＩＴ企業のビジネス拡大等を進めます。

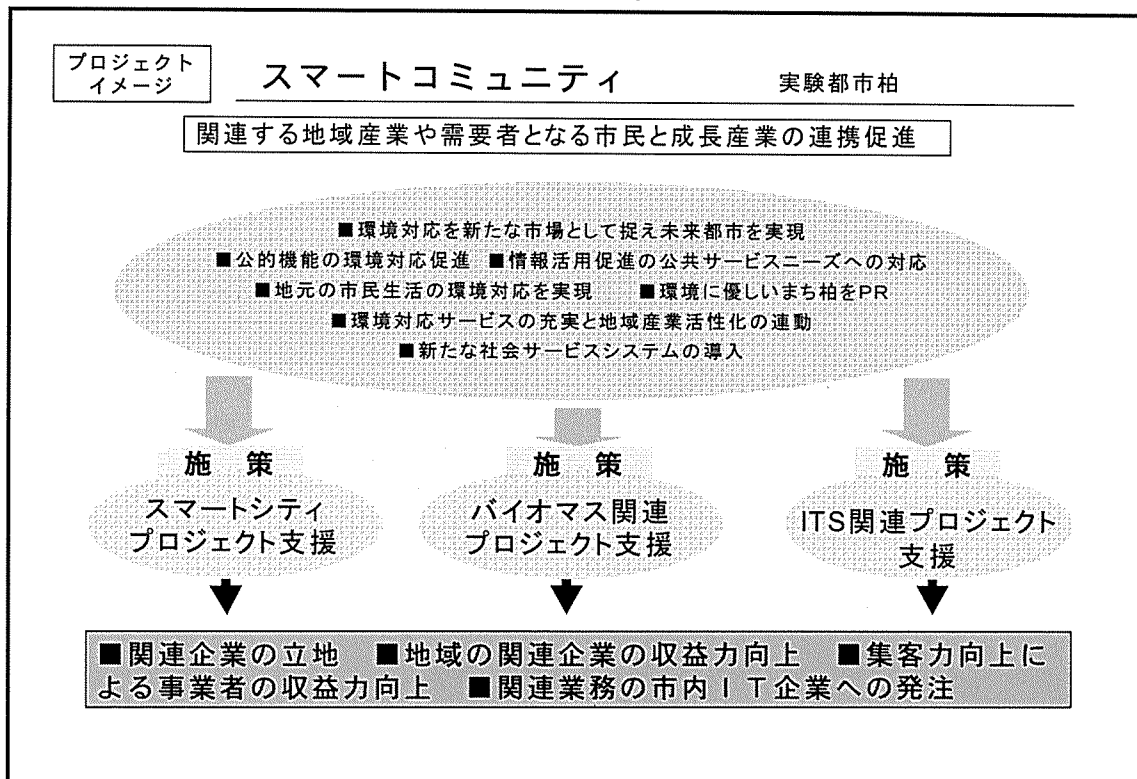
目 標	■スマートシティ関連企業の立地 ■関連するアプリケーション等の市内ＩＴ企業への発注 ■バイオマス関連企業の収益力向上、雇用創出 ■集客力向上による事業者の収益力向上 ↓ ↓ ↓ ・ 関連する地域産業や需要者となる市民と成長産業の連携促進 ・ 企業立地の促進、新産業の創出、地域企業の収益向上
事業内容	■スマートシティプロジェクトの支援 次世代環境都市の実現を目指すプロジェクトの支援を通じて、環境・エネルギー・ＩＴ分野の企業の立地促進、地域ＩＴ企業への需要創出を目指します。 ・ 国等の助成金獲得支援 ・ 公用車として次世代自動車を導入し実験に参加 ・ 公的施設へのスマートグリッド導入促進 ・ 街エコ推進協議会等を通じた住民への周知 ■バイオマス関連プロジェクトの支援 都市と農業が共存する本市の特徴を生かしたバイオマスプロジェクトに関連して、原料の効率的収集支援、肥料、燃料等成果品の利活用促進等を通じて、関連事業者の収益力向上を目指します。 ・ 国等の助成金獲得支援 ・ 原料収集への支援

	・ 関連事業者への紹介による生産品の利活用促進 ■ ITS 関連プロジェクトの支援 Intelligent Transport Systems（高度道路交通システム）プロジェクトの支援を通じて、地域 IT 企業のビジネス拡大を支援します。また、同プロジェクトを通じて、店舗・集客施設へのスマートなアクセスを進め、集客力向上を支援します。 ・ ITS 推進協議会会員企業と地域の関連情報保有者のマッチング支援 ・ ITS を活用した地域情報発信 ・ 関連事業の市内事業者への発注促進
参 画 者 関係機関	・ 実験プロジェクト参画企業、地域企業 ・ 周辺大学、産業支援機関 ・ 住民、関連協議会等機関 ・ 商店街、商業者（市内商店街、大型店 他） ・ 国、県の関係機関 ・ 柏市
その他	・ 事業実施に際してはプロジェクト参画企業のみならず、地域企業の参加を促し、民間事業を誘導していくことで実行性と持続性をあげていく。 ・ 社会実験は、市民、来訪者などの参加・協力が重要であるため、積極的に参加を呼びかけていく。

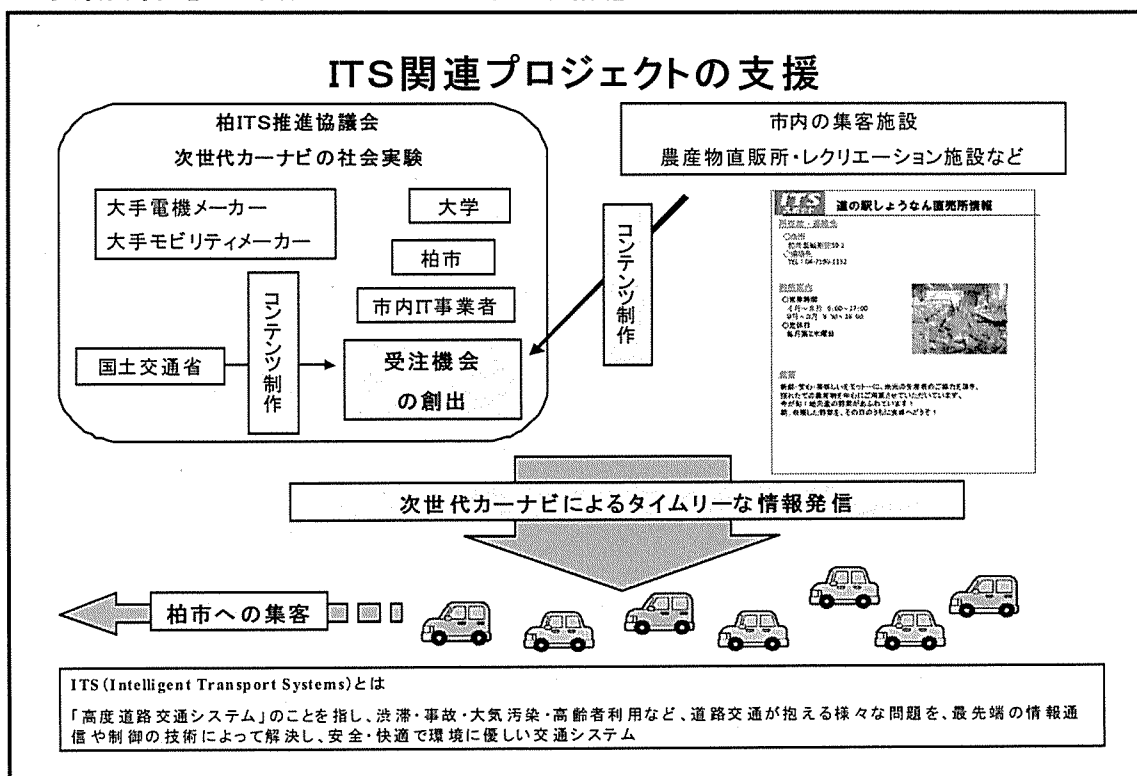
※スマートコミュニティとは、持続可能な社会を実現するために、電気の有効利用に加え、熱や未利用エネルギーも含めたエネルギーを地域単位で統合的に管理し、交通システム、市民のライフスタイルの転換などを複合的に組み合わせた地域社会。

◆本プロジェクトと事業内容のイメージは次ページの通りです。

■スマートコミュニティプロジェクトの事業イメージ



■事業内容【ITS 関連プロジェクトの支援】



(4) 農と食と健康のまち「柏」プロジェクト

地域の農業資源を活かし、地域でつながりを広げていく事業を支援・促進します。農業資源の循環は、農業の活性化、商業（小売、飲食、サービス等）の活性化、消費者の健康増進にもつながり、このような動きを地域内外に情報発信することにより、域内消費の拡大、来訪者の増加による需要の拡大を促進します。

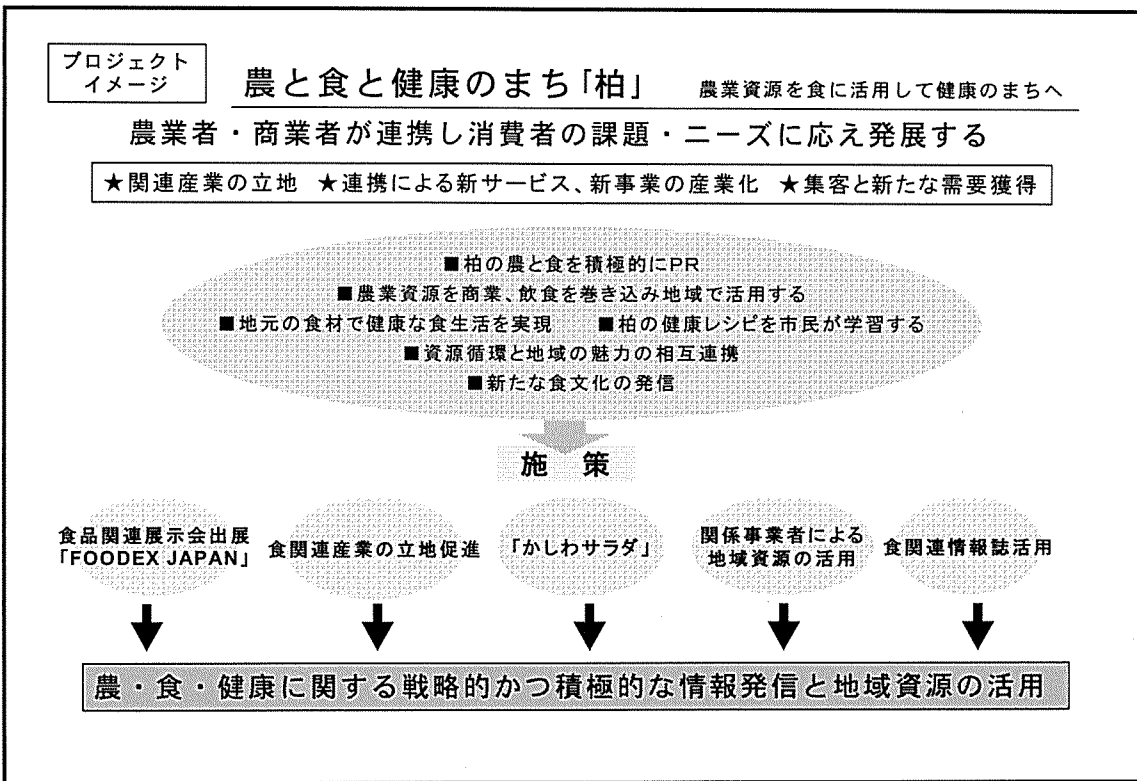
目 標	■農・食・健康に関する戦略的かつ積極的な情報発信 ■農・食・健康に関する地域資源の積極的な活用 ↓ ↓ ↓ ・集客と新たな需要獲得に向けたPR、情報発信 ・関連産業の立地促進、事業連携 ・連携による新サービス、新事業の産業化
事業内容	■食品関連産業展示会出展 農業や食、健康に関わるビジネスチャンスの創出や新たな企業の立地促進のため、柏市の魅力である恵まれた農業資源やそれを活かした食などに関するさまざまな情報を戦略的に発信、収集する展示会に関係者の連携により参加します。 ・「FOODEX JAPAN」など食関連展示会への出展 ■立地促進奨励金の拡充 柏市の強みを活かした企業立地活動を展開していくため、市内への立地促進を支援する企業立地促進奨励金制度の対象拡大を図ります。 ・対象産業に食品加工産業を加え関連事業者の立地を促進 ■「かしわサラダプロジェクト」の推進 柏市食育推進計画の重点プロジェクトに位置づけられている事業で、全国的に見ても生産量が多い柏の農産物である「かぶ」、「ねぎ」、「ほうれんそう」を活用し、これらの食材を使ったサラ

	ダを「かしわサラダ」と定義して、地産地消の推進と野菜摂食量の増加による健康づくりを進めるものです。多様な主体との連携を図りながら産業振興の観点からも推進していきます。 ・地元農産物を活用したレシピの普及 ・レシピなどを活用したPR事業(飲食店等でのメニュー導入) ・関係機関、企業などの連携による地産地消の推進 ■飲食業、流通業関連事業者による地域資源の活用 市内飲食業、流通関連事業者が農産物等の地域資源を活用して近隣消費者の取り込みができるように、地域資源の情報発信を行うとともに、市内飲食業、流通関連事業者と地域資源の生産者との交流を促進します。 ・農、食関連の地域資源の情報発信 ・市内飲食業、流通関連事業者と地域資源の生産者の交流機会の設置 ■発信力のある食関連媒体の活用 市の広報やホームページ、チラシやパンフレットなどによる情報発信を行っていますが、販路の拡大や集客の増加に向けて、民間の媒体なども積極的に活用して戦略的に情報発信を行っていきます。 ・情報誌や出版物等発信力のある関連媒体を活用した情報発信
参画者 関係機関	・農業者、住民、町会 ・農業活動団体、市民活動団体 ・食、農業関連産業(食品加工、健康関連、流通業者 他) ・商業者(商店街、大型店 他) ・食育関連団体(食農教育推進、給食 他) ・千葉大学園芸学部/環境健康フィールド科学センター他周辺大学 ・農業協同組合、東葛飾農林振興センター ・柏市

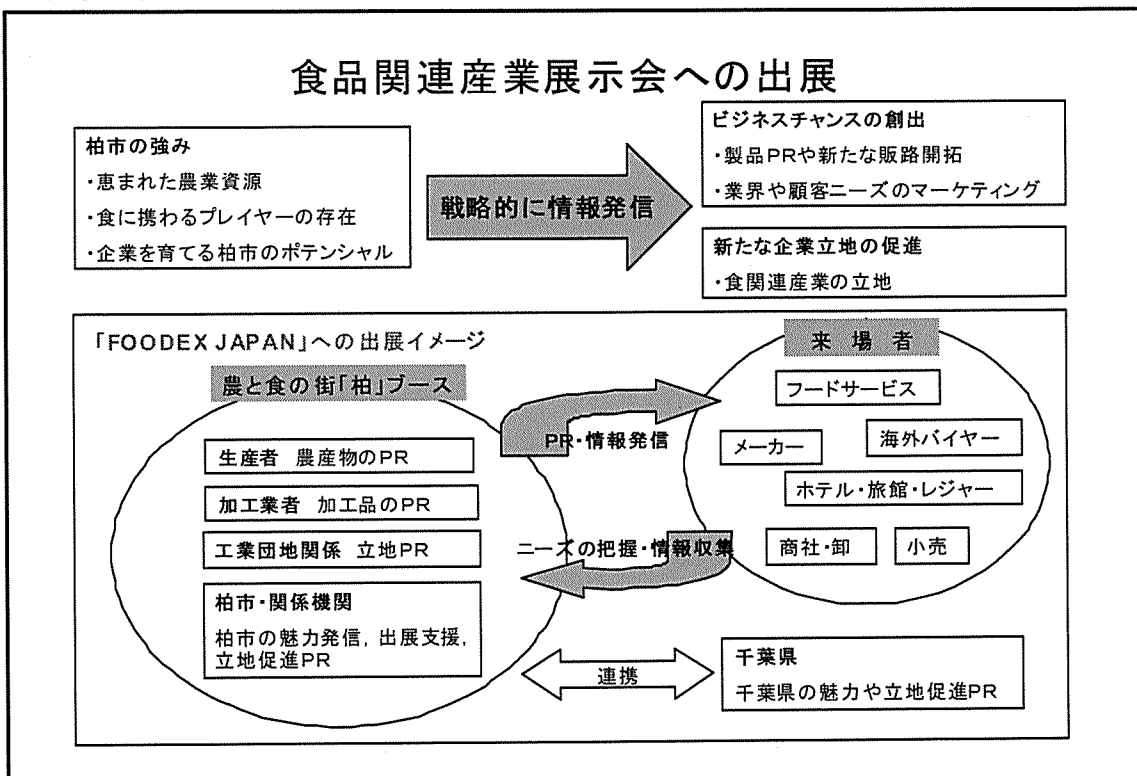
その他	・ 情報発信は、ターゲットや目的、媒体などを検討し、相乗効果も発揮されるよう戦略的に進めていく。 ・ 農や食を活かした地域の活性化を継続的に進めていくためには、取り組みを先導していく人材やコーディネーターが重要な役割を担っていくことから、その人材の確保や育成も図っていく。 ・ 農・食・健康等の事業は、市民、来訪者などの参加や協力が重要であるため、積極的に参加を呼びかけ、連携協力をコーディネートしていく。
-----	---

◆本プロジェクトと事業内容のイメージは次ページの通りです。

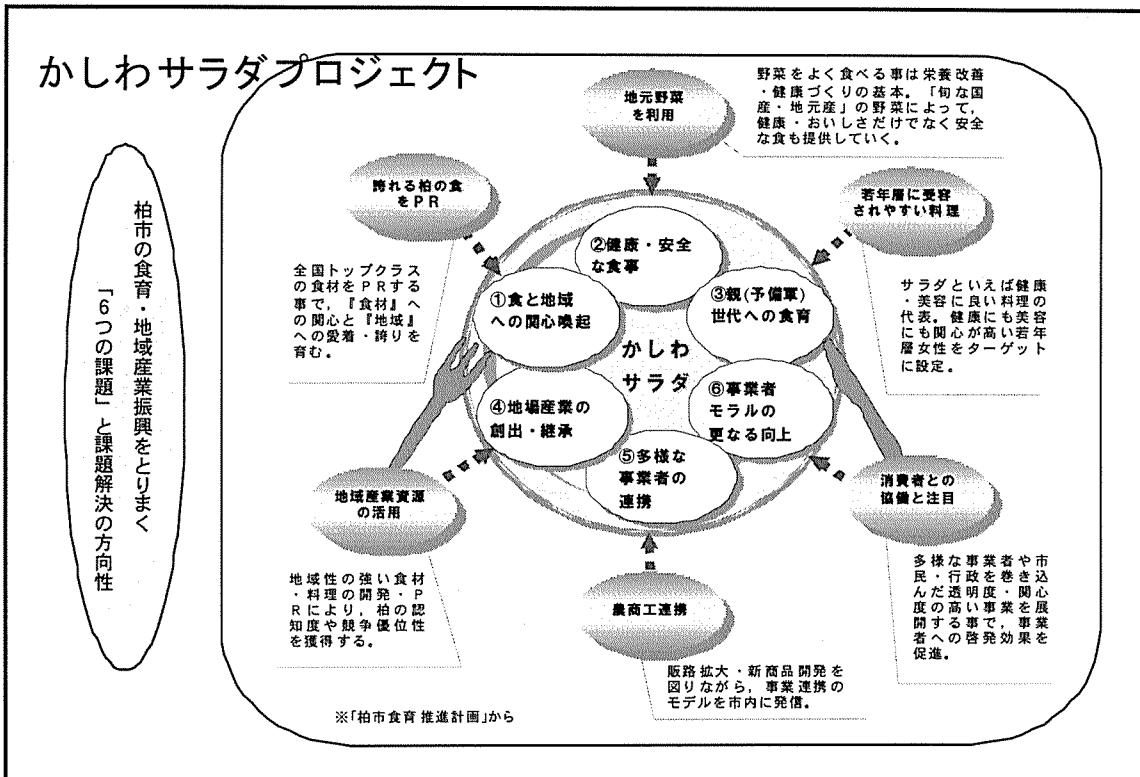
■農と食と健康のまち「柏」プロジェクトの事業イメージ



■事業内容【食品関連産業展示会への出展】



■事業内容【「かしわサラダプロジェクト」の推進】



(5) 高齢社会関連産業の振興プロジェクト

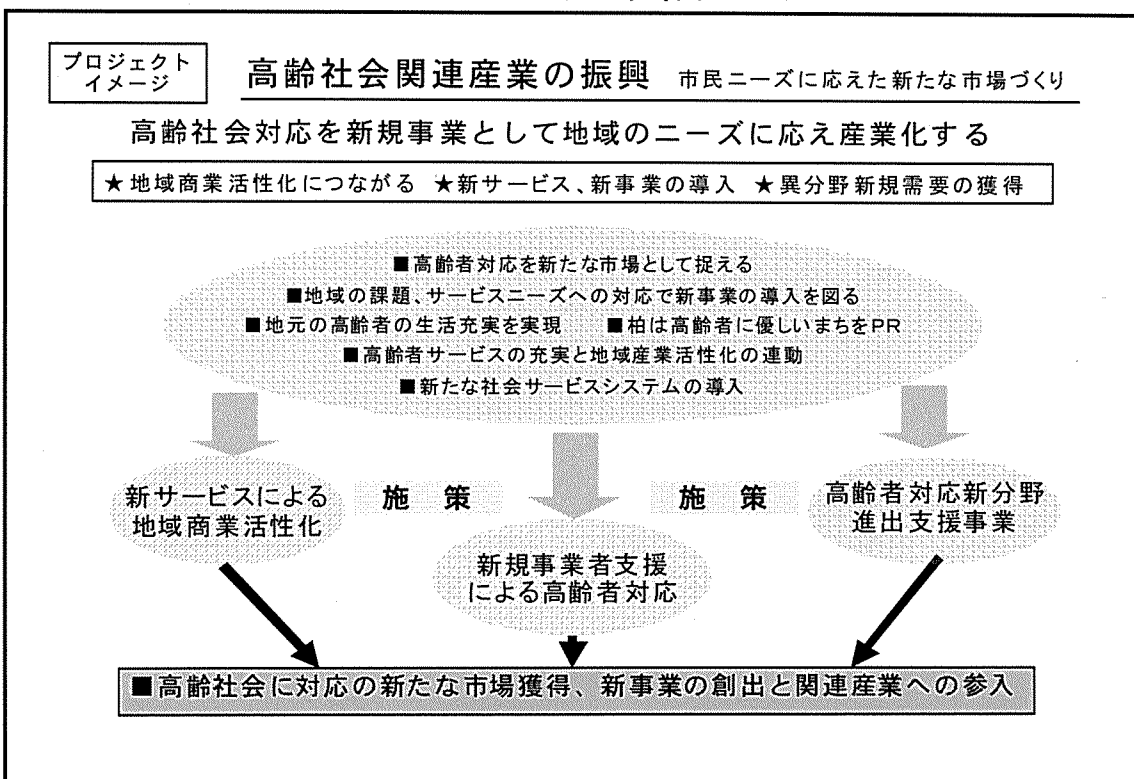
今後、柏市でも急速に増加する高齢者に対応するための事業を新たな需要やマーケットとして捉え、新たなサービスの導入などにつなげる支援を行います。このことは、市内の高齢者に対しての各種のサービス向上にも役立ち、高齢者がくらしやすいまち柏にもつながっていきます。

目 標	■高齢社会に対応した新たな市場の獲得 ■高齢社会関連産業への参入と新事業の創出 ↓ ↓ ↓ ・ 関連する地域産業やサービスの需要者となる市民との連携促進 ・ 関連産業の立地促進 ・ 連携による新サービス、新事業の産業化
事業内容	■高齢化社会に対応した地域商業活性化、新サービスの提供支援 高齢化社会の進展や店舗の撤退などにより、買い物に不便を感じる住民の増加が見込まれるため、商店街活性化につながる買い物弱者対策への取り組みを支援します。 ・ 買い物弱者対策支援 ・ 地域商業活性化事業費補助金（買い物弱者対策支援事業）獲得支援 ・ 高齢化社会のニーズに対応できる柔軟なサービス提供事業の支援 ■新規事業者支援、新分野進出支援事業 高齢化の進展に伴い新たに求められてくる多様なニーズを的確に把握し、新たな事業展開につなげていくための支援を行います。 ・ バリアフリーや介護事業などへの進出セミナーや相談活動の推進

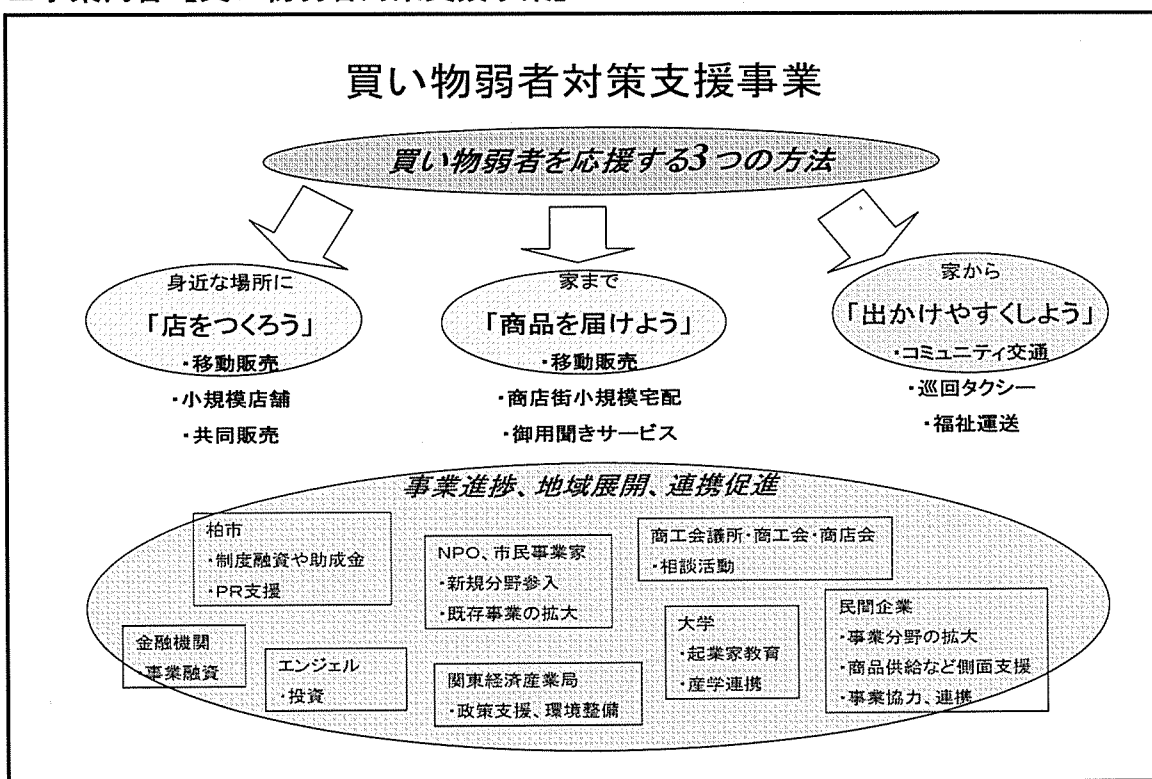
参 画 者 関係機関	・ 住民、関連協議会等機関 ・ 地域企業 ・ 周辺大学、産業支援機関 ・ 商店街、商業者（市内商店街、大型店 他） ・ 国、県の関係機関 ・ 柏市
その他	・ 高齢社会関連事業は、多様な主体の参画が期待できることから、企業だけでなく市民や関係団体との連携も積極的に進めていくことで波及する効果を高めていく。 ・ 高齢者の増加を新たなビジネスチャンスと捉えるだけでなく、労働力人口が減少する中、地域産業を支える人材としての活用も検討していく。

◆本プロジェクトと事業内容のイメージは次ページの通りです。

■高齢社会関連産業の振興プロジェクトの事業イメージ



■事業内容【買い物弱者対策支援事業】



(6) KASHIWA STYLE プロジェクト

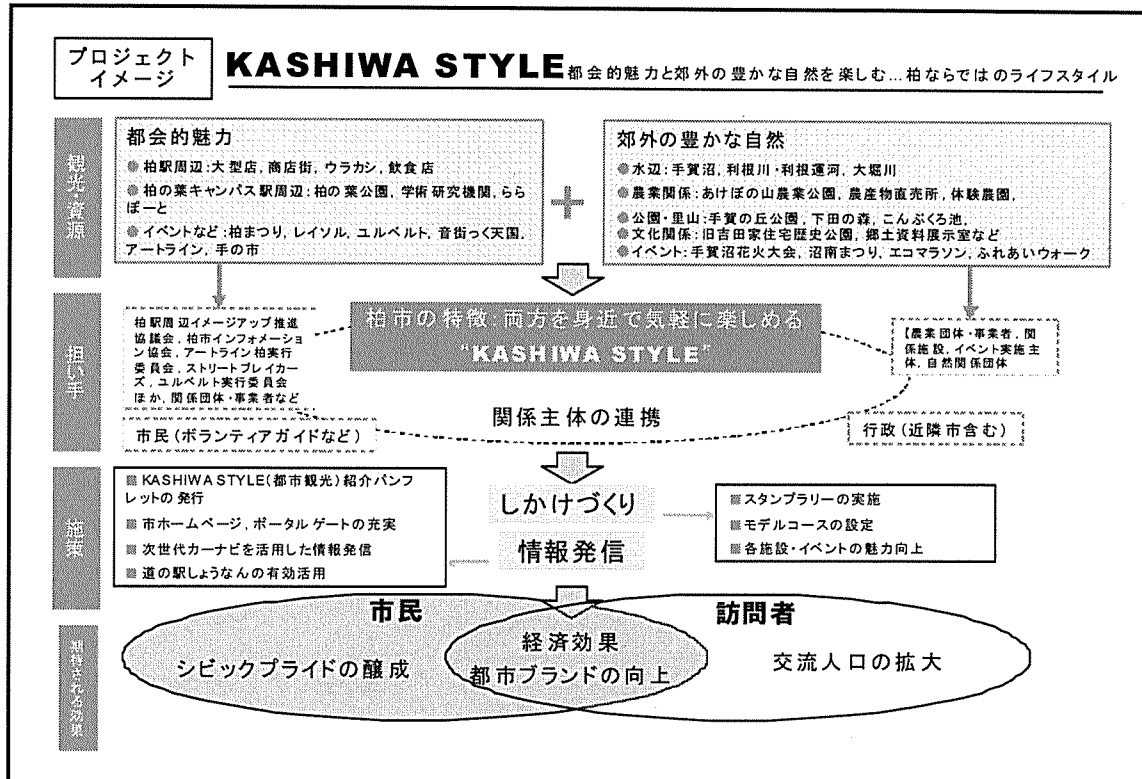
都市的な空間と自然環境の両方が共存している柏の魅力を発信し、市民や来訪者に柏での時間や空間を楽しんでもらう支援を行います。これにより、地域の賑わいを創出し、近隣消費者の取り込みなどにつなげて行きます。

目 標	■手賀沼周辺の自然環境や体験型農園などの田園型レクリエーションと、アートや音楽、ファッションなどの都市型レクリエーションの双方を楽しむ「KASHIWA STYLE」の提案 ↓ ↓ ↓ ・多様な主体の参加（シビックプライドの醸成） ・近隣消費者の取り込み（交流人口の拡大） ・まちの賑わいの創出（経済効果、生活空間の魅力の向上）
事業内容	■総合的観光案内ページの作成 市内の観光施設やイベント、見どころなどを集約し、多様な観光情報を発信します。 ・市のホームページを活用した総合的な観光情報の提供 ■田園型・都市型双方のレクリエーションに焦点を当てたパンフレットの作成 柏市に存在する都会的な魅力やスポーツ、豊かな自然、農業など、さまざまな身近な観光資源を、気軽に楽しむライフスタイルを提案します。 ・KASHIWA STYLE 紹介パンフレットの作成 ■手賀沼の資源を活用したレクリエーションの提供 手賀沼は都心から最も近い天然の湖沼で、各種観光施設が立地し、サイクリングコースも整備されています。身近なレクリエーションの場として格好の場所であることから、重点的に手賀沼周辺の観光振興を図ります。 ・手賀沼スタンプラリーの実施と関連事業者のネットワーク化

	・ 周辺自治体との連携による事業実施支援 ■ 柏市インフォメーション協会、柏駅周辺イメージアップ推進協議会、JOBAN アートラインかしわ実行委員会等との連携 さまざまな市民団体が率先してまちづくり活動に取り組んでいることは、柏市の大きな特徴です。各団体の活動は、地域の魅力向上に欠かせないことから、積極的に支援・連携していきます。 ■ 次世代カーナビへの地域情報発信 次世代カーナビへ市内の直販所、観光・集客施設の情報をプッシュ型で発信するプロジェクトを通じて、自動車利用者の市内店舗訪問機会を増やし、近隣消費者の獲得を支援します。 ・ ITS を活用した直売所、観光施設、イベント開催等の情報発信
参 画 者 関係機関	・ 実験プロジェクト参画企業 ・ 地域企業、NPO、ボランティア団体 ・ 商業者（商店街、大型店 他） ・ 住民、関連協議会等機関 ・ 周辺大学、関連機関 ・ 国、県の関係機関 ・ 柏市
その他	・ 事業実施に際しては既存、新規事業含めて、多様な主体に参加を呼びかけて、それぞれの取り組みが相乗効果を発揮するよう戦略的に行っていく。 ・ 市民、来訪者などの参加・協力が重要であるため、積極的に参加を呼びかけ、連携協力をコーディネートしていく。

◆本プロジェクトのイメージは次ページの通りです。

■ KASHIWA STYLE プロジェクトの事業イメージ



(7) 起業家支援プロジェクト

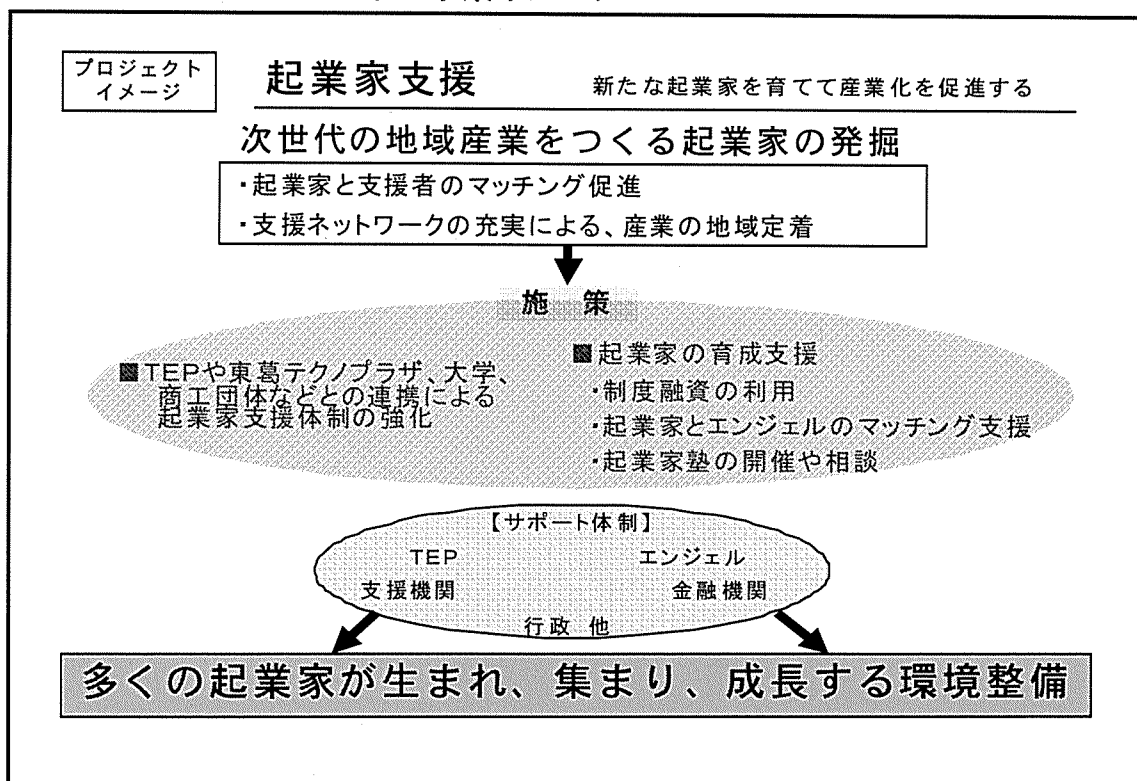
多様な産業が集積し、新しいまちづくりが進んでいる柏市には、新たなビジネスモデルを立ち上げていくうえで多くのチャンスがあります。地域での起業の増加は、雇用の拡大や新たな需要の発掘、地域サービスの向上などにつながることから、新たな事業の創出や起業を目指す取り組みを支援します。

目 標	■多くの起業家が生まれ、集まり、成長する環境整備 ↓ ↓ ↓ ・ 起業家の創出、新規事業の立ち上げ促進 ・ 新しいビジネスモデルの地域定着 ・ 雇用の拡大、新事業導入による事業継承促進
事業内容	■TX アントレプレナーパートナーズなど起業支援団体との連携 柏市にはインキュベーション施設や連携が期待される大学などが立地しているほか、つくばエクスプレス沿線における起業家支援を行う機関も存在することから、連携を進め起業家やベンチャー企業の支援体制の強化を図ります。 ・ TXアントレプレナーパートナーズや東葛テクノプラザ，大学，商工団体との連携による起業家支援体制の強化 ■起業家の育成支援 地域での起業活動を促していくため、起業家精神の醸成やノウハウの蓄積を支援するとともに、資金面での支援や交流の場を設定し、起業しやすい環境の整備を進めます。 ・ 市制度融資制度の利用促進 ・ 国，県，商工会議所等と連携した起業家支援 ・ 起業家とエンジェルとのマッチング支援 ・ 起業家塾の開催や相談支援

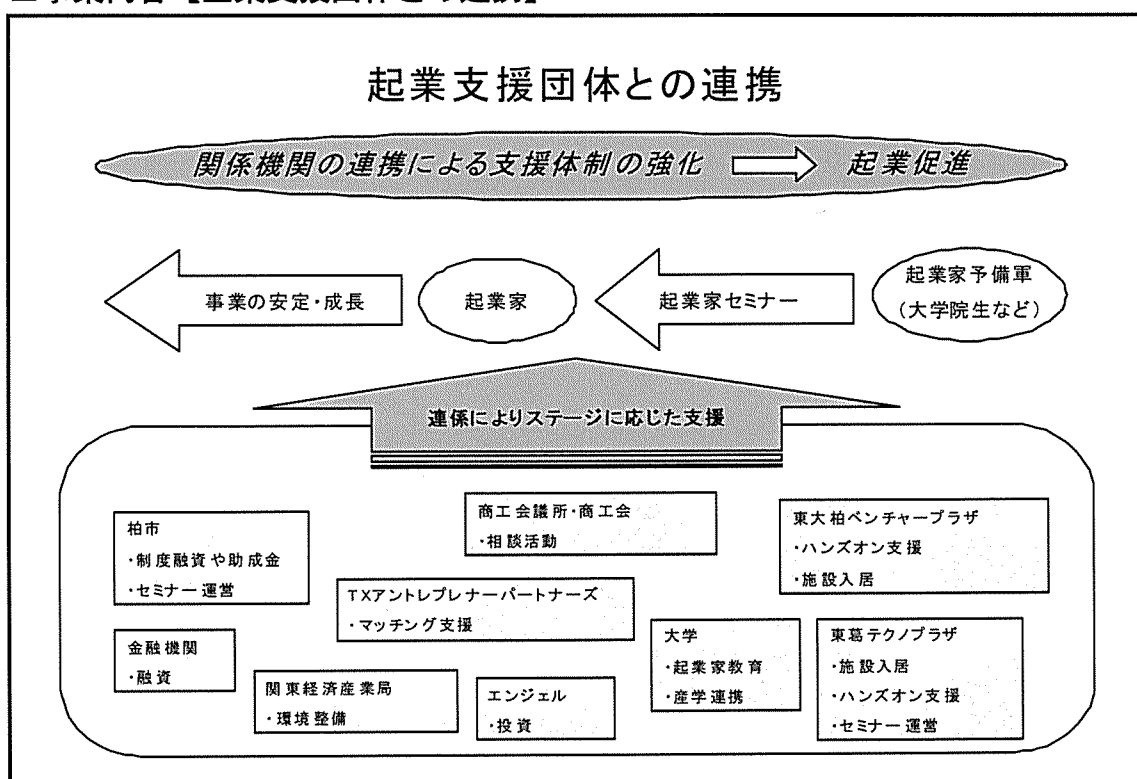
参 画 者 関係機関	・ 地域企業 ・ 起業家（学生、社会人） ・ 地域の教育機関 ・ エンジェル、インキュベータ、金融機関 ・ 国、県の関係機関 ・ 柏市
その他	・ 創業時のみならず、創業後も事業が安定し、成長していけるよう関係機関が連携して継続的に支援をしていく。 ・ 起業家支援は関連企業や金融機関、個人投資家などの参加や協力も重要であるため、積極的に支援を呼びかけていく。 ・ 地域にある大学などとも連携を図り、事業を起こすことを目標としている学生なども含めた支援を検討していく。

◆本プロジェクトと事業内容のイメージは次ページの通りです。

■起業家支援プロジェクトの事業イメージ



■事業内容【企業支援団体との連携】



(8) 重点プロジェクトの推進にあたって

1) プロジェクトの推進体制

プロジェクトを具体的に推進していくためには、プロジェクトの推進役や実行者を特定するとともに、プロジェクトに参加し牽引していく参画者による連携体制の構築が重要になります。また、それをコーディネートしていく行政や関係者を含めた幅広い横断的な体制づくりが必要です。

重点プロジェクトの中には、すでにプロジェクトチームにより事業が進んでいるものもありますが、プロジェクトの具体的な推進に当たっては、効果的な実行体制を構築し、地域の産業振興に関わるさまざまな主体がそれぞれの役割を果たしつつ連携を強化していく仕組みを検討していきます。また、積極的で戦略的な情報発信や情報収集により、新たな地域の企業や人材、資源を発掘し、プロジェクトへの参画を促していきます。

産業を取り巻く環境変化や、国、県が進める新たな支援策の動向を迅速に把握していくことは、実効性のある支援策を進めていく上で必要不可欠です。国や県、関係機関への職員の派遣などを通じて、連携体制の構築と迅速な情報把握に努めていくこととします。

2) プロジェクトの計画的推進

プロジェクトを計画的に推進していくため、プロジェクト（具体的事業を含む。）の実行度や効果を評価、検証するため指標を設定して適正な進行管理を行っています。指標は、後期基本計画との進行管理と連動させていくため、後期基本計画と同様の次指標を用いることとし、後期基本計画においてプロジェクトに合致する指標が設定されていない場合は別の指標を設定します。

また、現在も日々変化している国内外の経済社会環境の動向【アジア諸国の動き、TPP問題…等】により、我が国の産業の競争力、比較優位の変化などが生じることも予想され、現在進められている、次世代産業（環境分野、高齢社会対応 等）への取り組み方向の変化や、より一層の内需型産業（農業、食品、各種サービス 等）へのシフトが求められる状況も考えられます。また、東北地方太平洋沖地震の影響も今後ますます広がっていくものと考えられます。

このような変化に対応するために、柏市産業を取り巻く状況認識を持ちつつ、本プロジェクトの計画推進に際しては、継続して変化に対応するプロジェクト推進に対する弾力的運用に努めて行きます。

そのためには、計画対象分野の見直し、目標値の見直し、支援方策の再検討や、計画理念の継続的な検討についても続けて行きます。

人材確保・育成プロジェクト

指標の名称	現状値	H27 年度末 目標値	指標の説明
企業合同就職面接会により市内企業に就職した人の数	20 人 (H22 年度実績)	各面接会 20 人	・面接会により就職できた人の数から、人材を求める市内企業が何人の人材を確保できたかを測る指標です。

国際化支援プロジェクト

指標の名称	現状値	H27 年度末 目標値	指標の説明
海外向け情報発信支援数（のべ数）	0 件 (H23 年 3 月)	7 件	・海外向け情報発信支援数から、プロジェクトに位置づけられた事業の実行度や事業者の取り組み達成度を測る指標です。

スマートエネルギー・スマートアクセス・シティプロジェクト

指標の名称	現状値	H27 年度末 目標値	指標の説明
企業立地促進奨励金の対象立地 企業数（のべ数）	4 社 (H21 年度末)	7 社	・企業立地促進奨励金を交付し市内に立地 した企業の数から、企業立地促進施策に よる効果を測る指標です。

農と食と健康のまち「柏」プロジェクト

指標の名称	現状値	H27 年度末 目標値	指標の説明
展示会への出展（のべ数）	0 (H23 年 3 月)	2 回	・展示会への出展数から、プロジェクトに 位置づけられた事業や情報発信の実行度 を測る指標です。

高齢社会関連産業の振興プロジェクト

指標の名称	現状値	H27 年度末 目標値	指標の説明
高齢社会関連産業支援による事 業化数	0 (H23 年 3 月)	3 件	・支援による事業化数から、高齢社会関連 産業支援策の受け入れ度やその効果を測 る指標です。

KASHIWA STYLEプロジェクト

指標の名称	現状値	H27 年度末 目標値	指標の説明
柏市への観光入込客数	3,457 千人 (H21 年度)	3,630 千人 (5%増)	・柏市への観光入込客数から、柏市のまち 魅力が向上し、効果的に情報発信されて いるかを測る指標です。

起業家支援プロジェクト

指標の名称	現状値	H27 年度末 目標値	指標の説明
インキュベーション施設への入 居率	92.5% (H22 年 6 月)	100%	・東葛テクノプラザ、東大柏ベンチャーブ ラザへの入居率から、柏の葉地域におけ る新産業創出や起業家育成の動向を測る 指標です。

6 柏市第四次総合計画後期基本計画との関係

後期基本計画第4部は分野別の施策体系により施策や事業を体系付けていますが、柏市産業振興戦略プランは分野を跨って取り組むことで効果が期待できるプロジェクトの作りこみに重点を置いた体系付けをしています。

後期基本計画の施策体系別計画と産業振興戦略プランの関係を示した体系図を次のとおり示します。

柏市第四次総合計画後期基本計画と柏市産業振興戦略プランとの関係図

部	章	節	項	事業名	柏市産業振興戦略プラン 重点項目					
					成長を支えるプラットフォーム整備	戦略的情報収集発信	恵まれた環境を生かした立地促進	成長戦略分野の立地・産業化促進	農・食・健康関連地域資源の活用	新しい公共の担い手との連携
第4部 施策体系別計画	第3章 活力・賑わい	1節	2. 柏駅周辺地区の整備の推進	(1) 柏駅周辺中心市街地の活性化の推進	柏市中心市街地活性化基本計画の推進					○
					柏駅周辺商業活性化事業	○				○
					インフォメーションセンター事業	○				○
		2節	1. 市内事業者の事業環境の整備	(1) 事業者の経営基盤の安定化	中小企業資金融資と利子補給事業	○				
					セーフティネット保証の認定	○				
					中小企業者等支援専門家派遣事業	○				
					国際化対応、支援アジア市場セミナー	○	○			
					成長分野雇用創造事業	○		○		
					合同就職面接会と雇用促進助成事業	○				
				(2) 地域商店街の活性化	商工団体共同施設設置等補助	○				
					商店街街路灯電気料補助	○				
					商店街振興共同事業補助	○				
					近隣商店街活性化事業補助	○				
					高齢社会対応への支援			○		
					るつくふお・かしわ、ものづくり電子プラザの充実	○	○			
				(3) 市内事業者に関する情報の戦略的発信	発信力のある民間媒体との連携		○		○	
					次世代カーナビ向け情報発信		○	○	○	
					工業祭補助金		○			
				(1) 産学官連携による新産業の創出	産学官連携新規事業者等施設入居支援補助	○				
					インキュベーションマネージャー事業	○				
					新分野進出支援事業			○		
					産学連携・異分野連携助成			○		
					スマートシティ関連参入支援			○		
					ITS関連産業への参入支援			○		
				(2) 起業家の育成	バイオマス関連事業支援			○	○	
					TEPとの連携					○
					起業家塾					○
					コミュニティビジネス支援事業					
					中小企業資金融資と利子補給事業	○				
				(4) 地産地消の推進	地産地消協力店の指定				○	
					農商工連携による新商品開発				○	
				(5) 農業交流の促進	食と農に関する情報発信		○		○	
					かしわサラダプロジェクトの推進		○		○	○
				(1) 多様な観光資源の活用と創出	手賀沼などの観光振興		○		○	
					手賀沼花火大会補助				○	
					アグリビジネスパーク事業				○	
					多様な媒体を利用した観光情報の発信		○			○
				(2) 観光情報提供の充実	観光パンフレット・マップ作成		○			
					広域的な情報提供体制の整備		○			
				(1) 企業立地の促進	企業誘致活動の推進		○	○		
					企業立地動向調査		○	○		
					企業立地促進奨励金			○		
					企業立地情報提供事業		○	○		
					食品関連展示会出展		○	○		○
					スマートシティプロジェクト支援			○	○	
				(2) 雇用機会の創出	合同就職面接会と雇用促進助成事業	○				
					職業能力養成事業	○				
					成長分野雇用創造事業	○		○		

資料：柏市産業振興戦略プランの策定経過

柏市産業振興戦略プラン策定に当たっては、事業者、経済団体、学識経験者、及び市民の意見を聴くため、次のとおり柏市産業振興会議を開催しました。

1 平成22年度第1回柏市産業振興会議

(1) 日時：平成23年2月3日（木）午前10時～正午

(2) 場所：柏市消費生活センター 消費者ルーム

(3) 議題

正副会長選出

柏市産業振興戦略プランについて

2 平成22年度第2回柏市産業振興会議

(1) 日時：平成23年2月23日（水）午後2時30分～午後4時

(2) 場所：柏市役所別館第5会議室

(3) 議題

柏市産業振興戦略プランについて

第3期 柏市産業振興会議委員			
選任 区分	番号	氏名	所属団体等
事業者	1	畔 高 敦 司	(株)ミツワ堂 代表取締役 (柏市商店会連合会長)
	2	石 澤 宏 之	石澤商工(株)代表取締役 (柏市沼南商工会工業部会長)
	3	井 上 廣 里	中央ばね工業(株) 取締役会長 (柏商工会議所工業部会長)
	4	勝 矢 一 久	(株)ロータス 代表取締役
経済団体	5	倉 持 守 利	ちば東葛農業協同組合 柏地区経済センター センター長
	6	関 辰 男	柏市沼南商工会 参事

	7	中 村 滋 男	柏商工会議所 中小企業相談所長
学識経験者	8	石 戸 新一郎	柏商工会議所まちづくり委員会 委員長
	9	伊 藤 恭 一	柏市観光協会 会長
	10	清 水 敬 広	(独) 中小企業基盤整備機構 関東支部 地域経済部 地域振興課 課長代理
	11	高 辻 秀 興	学校法人廣池学園 麗澤大学経済学部教授
	12	戸 村 稔	松戸公共職業安定所長
	13	花 島 美枝子	柏商工会議所女性会会長
	14	村 井 勝	T Xアントレプレナーパートナーズ代表
	15	八十岡 光 子	柏市沼南商工会女性部 部長
	16	山 本 修 一	(財) 千葉県産業振興センター 東葛テクノプラザ所長
市民	17	葛 綿 文 子	柏市消費生活かたくりの会連絡協議会長

